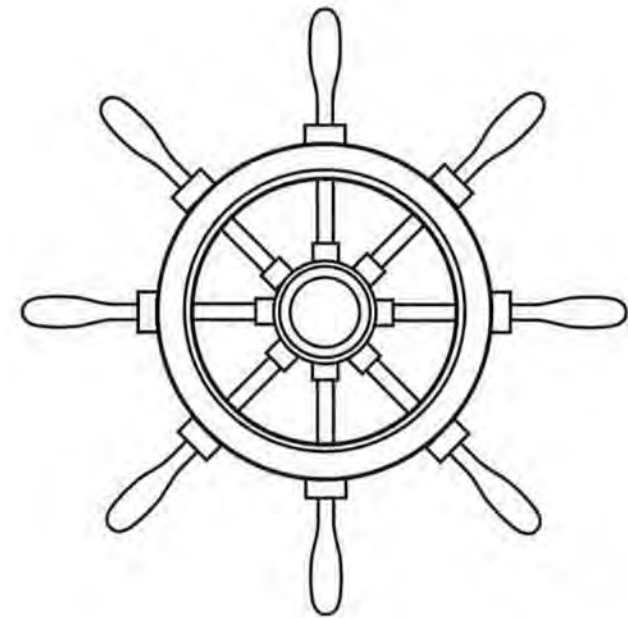


創立40周年記念

日本海運仲立業組合

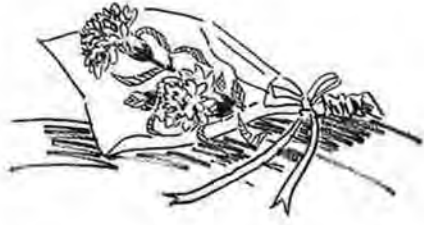
会 報

創立40周年記念



日本海運仲立業組合

The Shipbroker's Association of Japan



目 次

【御挨拶】

より付加価値の高いアイデア提供で 今後も貢献を	日本海運仲立業組合 理事長 松井 茂	4
----------------------------	--------------------	---

【創立40周年記念パーティー御来賓代表】

「運輸省海上交通局長祝辞」	運輸省海上交通局長 高橋 朋敬	5
「日本船主協会会長祝辞」	社団法人 日本船主協会会長 生田 正治	6
「船社代表祝辞」	日本郵船株式会社副会長 石川 浩	8
「船社代表祝辞・乾杯」	社団法人 日本海運集会所会長 友國 八郎	10

【創立40周年記念パーティー写真集】

【船社からの祝辞】「寄稿」(50音順)

心の通った情報が発展の礎	第一中央汽船株式会社社長 稲田 正三	19
新世紀(あした)に向けて	出光タンカー株式会社社長 岡村 善晴	20
半世紀に向けて新たな発展を	日本郵船株式会社副社長 白熊 邦章	21
不定期船営業にブローカーさんの ご助言は不可欠	川崎汽船株式会社社長 新谷 功	22
ブローカーズマインド失うことなく 邁進を	新和海運株式会社社長 鷺見 嘉一	23
アフラと3人の仕掛人(秘話)	三光汽船株式会社常務取締役 松井 毅	24
日本海運発展のため若い人の 育成に助力を	株式会社商船三井副社長 山下 真一郎	25

2000年度会報(平成12年2月吉日発行)

【組合員からの祝辞】「寄稿」(50音順)

諸先輩の労苦を思いバトンタッチ できる努力を	シーダム・ SHIPPING株式会社 大里 隆司	26
消費税導入時の皆様のご協力に感謝 海運業界のため良き潤滑油の 役割を果たしたい	大原海運株式会社 大原 慎二 川畑海運株式会社 川畑 繁明	27
素 踊り	株式会社マリントレーダー 河南 丈久	29
組合発展のためには固い結束と たゆまぬ努力が必要	ファーイーストチャーターリング株式会社 小暮 信夫	30
雑 草 魂	株式会社島津商店 島津 頼明	31
節 目	宝運SHIPPING株式会社 坪川 経大	32
デフレ経済下の日本 我々海運の未来に明るさも	(有) 轟木海運事務所 轟木 保廣	33
日本海運発展のため 皆様ともども全力を傾注	株式会社セントラルマリン商会 長尾 孝道	35
感謝をこめて	山水海運株式会社 羽島 恵子	36
海運仲立業組合設立40周年を祝して	株式会社郵船エージェンシー 風当 一郎	37
組合員の自己研鑽の場	福洋海運株式会社 福井 幸治	38
現実を直視すれば未来は開ける	山水海運株式会社 増田 晴男	39
ブローカー業は大乗利他の精神で	エム・シー・マリタイム・トレーディング株式会社 望月 久暉	40

組合のあゆみ	42
為替動向	53
平成11年度組合役員	54
組合員名簿	55
編集後記・奥付	60

「御挨拶」

より付加価値の高い アイデア提供で今後も貢献を

日本海運仲立業組合 理事長 松井 茂



松井理事長

本日は皆様方におかれましては公私とも大変ご多忙中のところ日本海運仲立業組合の創立40周年記念パーティに運輸省海上交通局長、高橋朋敬様はじめ日本船主協会会長であり商船三井社長の生田

正治様、日本郵船副会長石川浩様、日本海運集会所会長友国八郎様他多数のご来賓のご光栄を賜りましたこと組合員一同に成り代わりまして心より厚く御礼を申し上げます。

お蔭様で当組合も1959年創立以来、今年で40周年を迎えることができました。これも偏に本日ここにご参集頂きました監督官庁であります運輸省の皆様をはじめ船会社各位の長年に亘るご指導ご支援の賜によるものであると改めて心から厚く御礼申し上げます。

振り返ってみますと、この40年の間には海運史上いろいろな出来事がございました。在来定期からコンテナへの移行、海運集約、第2次スエズ動乱の勃発、日本円の変動相場制移行による円の急騰、オイルショックによる原油価格の暴騰、造船不況カルテル突入、V L C Cによるタンカー備蓄、我が国及び海外の大手海運会社の倒産、山下新日本汽船とジャパンラインの合併によるナビックスラインの誕生で中核体が5社になった事、更に商船三井とナビックスラインの合併により中核体が3社になったこと等々……。その他にも沢山の出来事がございました。

この間、我々ブローカー業界にも栄枯盛衰ございました5年前には100社を数えました組合メンバーが現在では70社に減りました。船主・荷主様の数が企業合併、統合により年々少なくなりました今日、我々シップブローカーも大変厳しい事態に直面しております。

昨今のインターネットや他の情報通信の著しい発達により我々ブローカーの情報の価値が薄れてまいりましたこと、船主荷主の企業合併統合の合理化で荷主要求による直接取引契約の増加等、我々シップブローカーを取り巻く環境は大変厳しいものとなっています。

来るべき21世紀には益々この様な減少が増大するものと考えられますので、我々シップブローカーといたしましてもより付加価値の高いアイデアを以て皆様方のお役に立っていかねば生き残れないもの覚悟致しております。今後ともよろしくご指導、ご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

最後になりましたが、この様なとても厳しい状況下、今年も我々組合員の中から7月20日の海の記念日には三立海運の倉石氏が関東運輸局長表彰を、三貴海運の長嶋氏が運輸大臣表彰を受賞されました。また、来る11月3日の文化の日には当組合員の中から黄綬褒章受賞内定を頂いております事は監督官庁の運輸省におかれましては、我々海運仲立業の存在価値を微力ながらお認め頂いたものと心から感謝申し上げますと共に大変嬉しく存じ居る次第であります。

本日は真に粗酒粗肴では御座いますがお時間の許す限り我々組合員とご談話を賜りますれば大変光栄に存じます。有り難うございました。

創立40周年記念パーティ御来賓代表

「運輸省海上交通局長祝辞」

運輸省海上交通局長 高橋 朋敬



高橋 朋敬氏

本日は日本海運仲立業組合が創立40周年を迎えられたわけですが、心からお祝い申し上げながら一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

いまさら申すまでもありませんけれど、我が国に於きまして海運業というのは、資源・製品等の安定輸送を確保して、国の経済と国民生活の発展を図る上で極めて重要な役割を果たしているところでございます。

この重要な産業であります海運業の発展には船腹と貨物を船会社と荷主に仲介し海上輸送の効率的な運用に寄与する海運仲立業の存在が必要不可欠でございます。

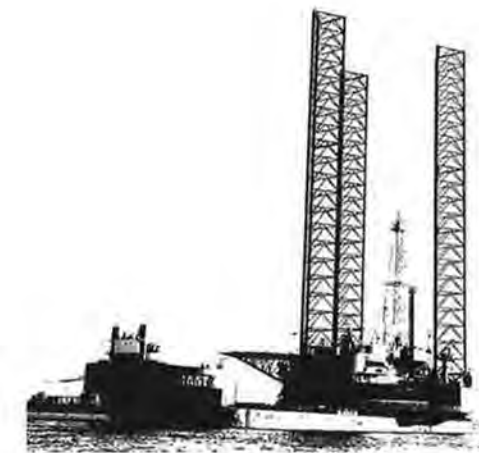
日本海運仲立業組合は、昭和34年の創立以来今日まで40年の長きに亘りましてその使命を全うして来られました。まず、そのことに対して深く敬意を表したいと思います。現在東京は、ロンドン、ニューヨークと肩を並べる世界の3大海運マーケットの一つで御座いますが、皆様方はいわば縁の下の力持ちというような存在でございまして、船腹の効率的運用に寄与するばかりでなく、必要な物資の安定供給を通じて国民生活にも大いに貢献されているところでございます。

貿易立国たる我が国にとりまして、資源の輸入、工業製品の輸出など貿易物資の輸送を担う海運の重要性は将来に亘り不変のものであります。この様な外航海運取引を円滑かつ効率的に進めていく上で、海運仲立業の果たす役割もまた大変重要な

ものでございまして、激変する世界経済の動きに迅速かつ適切に対応していくことが、今後益々求められていくと思います。

我が国海運を取り巻く状況は、最近の経済の低迷や恒常的な円高の影響によりまして極めて厳しい内容となっております。海運業界は今後もいっそう経営基盤の充実・強化に取り組んでいく必要に迫られていくと承知しております。皆様方におかれましては、今後とも日本海運仲立業組合を中心に一致協力して、我が国海運ひいては日本経済の発展のためにご尽力頂くようお願い申し上げます。

終わりに貴組合ならびにここにお集まりの皆様方の益々の御発展を祈念したしまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。どうも有り難うございました。



「日本船主協会会長祝辞」

社団法人 日本船主協会 会長 生田 正治



生田 正治氏

日本船主協会の仕事をさせて頂いております商船三井の生田でございます。本日は日本海運仲立組合創立40周年、心からお祝い申し上げます。おめでとうございます。

40年前といいますと、昭和34年ですね、1959年。経済白書がもはや戦後ではない、と書いたのが昭和31年、鳩山総理の時だったと思うのですが、やっと戦後を脱して日本が以後の経済成長への助走を始めた、世界経済も戦後を脱して発展する助走の時期に入った時期だと思います。同年の1月1日に欧州共同市場ECがスタートしております。今年のエUを迎えるのに40年間かかっているわけです。ECがスタートしたこと、海運関連ではセント・ローレンス水路がこの年に開通したという様なことで、何か事始めにはよい年だったのかなと、ま、こんな感じがするのですが、どうも仲立組合の皆様と日本の海運というのは多少つるんでいるんじゃないかと思うのですが、この年に輸送貨物輸入協議会が、鉄鋼原料、石炭、塩、木材、穀物と5つの部門を抱えてスタートしております。なにか仲立組合の創立と輸協の創立は、ヒットエンドランで日本の経済成長に備えたのかな、たぶん、防衛庁とはひと味違う良質の談合があったんじゃないのかな、ま、こんな感じがするわけでございます。

当時、日本の海運は630隻位で492万総トンと小さかったわけです。以後、持ちつ持たれつ組合の

皆様に支えられながら、あるいはリードしていたきながら、随分日本の海運も少なくとも図体だけは大きくなりました。ちっとも儲かんないんですけども、図体は確実に大きくなりまして、今約1970隻・約1億デッドウェイトトンでございます。大変有り難うございました。ここまで来るのに、随分お力を頂いていると思います。

それで来年はミレニアム。次いで21世紀と、まさにキリのいいところで40周年をお迎えになっらっしゃるわけですが、21世紀は資源の有効活用、環境の保全、経済の持続的で緩やかな安定成長が望まれる。これが21世紀だろうと思います。そこでやはり必要なのは、我々海上国際輸送力、また国内もそうでしょうが、日本のロジスティクス、世界のロジスティクスをキチンとやっていくということが重要になるわけございまして、私ども海運も頑張りますが、常に同床異夢ではなくて、同床同夢でお付き合い頂きました仲立組合の皆様方には、ぜひ一緒に走って頂きたいと思います。

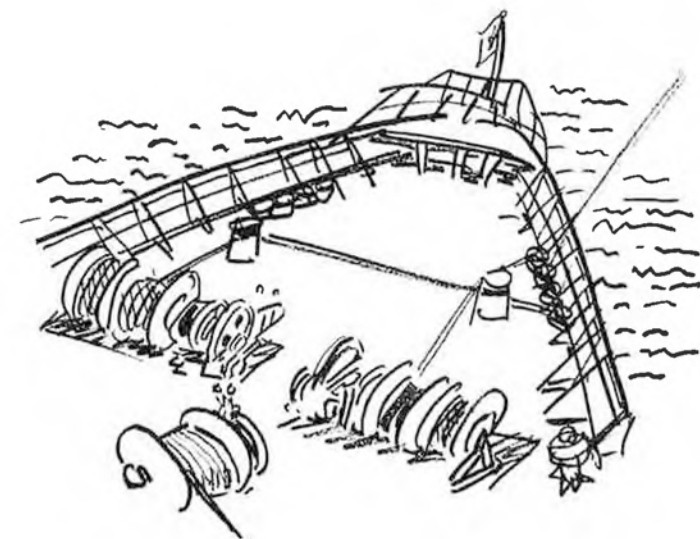
先程お話のなかで、インターネットがどんどん発達してきて、役目が段々薄れてくるようになったというお話がありました。逆ではないかと思うのです。実は昨日、前財務官の榊原さんとお話しする機会があったのですが、21世紀というのはサイバー資本主義、インターネットをベースとした情報社会の資本主義、サイバー資本主義になるんだけれども、そこで例えば、言わばファイナンス・金融面のブローキングをやる銀行というもの使命は段々小さくなるのではないかという話を、だからあちこち合併して大きくなってもしようがないんじゃないかという意見も世の中無いわ

けじゃ無いのですが、話は逆であると。サイバー資本主義、情報社会になればなるほどそれをうまく活用するキーは人であり人脈であると。それをいかに繋いでいくか、そこに人の重要性というのが21世紀は益々重要になるという御意見でございまして、私は、日本海運仲立組合の皆様の使命というものは、日本の、世界のロジスティクスをうまくやるためのお力を貸して頂くことであり、役目は益々大きくなるのだろうと、かように思っております。ぜひ頑張ってください。

で、さっき伺ったら、今日はあんまり、あの、

お客様といいますか、荷主様の、勿論いっらしゃるんでしょけども、沢山はいらっしゃってないということなんで、小さい声で申し上げますが、同床同夢ですから、お互いにもうちょっと儲かるようにですね、一つ一緒に努力させて頂ければと、かように思う次第でございます。

それでは、ミレニアム、21世紀にかけて、日本海運仲立組合の皆様方の益々の御発展、我々の監督官庁である運輸省をはじめ、御出席の皆様方の御健勝を祈念いたしまして御挨拶とさせていただきます。どうも有り難うございました。



「船社代表祝辞」

日本郵船株式会社 副会長 石川 浩



石川 浩氏

石川でございます。御指名でございますので、お祝いとこれからのお願いの御挨拶を申し上げます。

本日は40周年、誠におめでとうございました。また、私ども多数をお招きいただきました。

私どもの会社からも大勢来ております。この素晴らしいパーティにお招きいただきまして、本当に有り難うございました。

私は入社いたしましたもう随分経つんですが、この会にお招きいただいて、一言お話をするとということになりましたので、実は先週、私個人事になりますが、ウチの11階にですね、ここにお出でになってるブローカーさんがよくお見えになります。その部屋へ参りまして、従来からの、昔の私どもがお付き合い頂いていた方がお見えになっているのかということで、15分ばかり座りまして拝見させて頂いてましたら、午後の3時頃、この頃非常に多くの方がお見えになる。従来どおり変わりなく商売のご支援を賜っているということで安心したわけでございます。

ただ、顔を存じあげない方が中にいらっしゃいまして、あの方はどなたかということで聞きましたらですね、あの方はこういう方ですとおっしゃるんですが、考えてみましたら、私が入社したころの3代目の方ですね。3代続けて私どもお世話になっているということでございまして、そういう方が何人かいらっしゃるわけでござい

ます。

ちょっと古い話で、皆様に嫌われますが、ちょっとご参考までに一言ご披露申し上げますが、私入社しまして、ウチは定期船がメインでございまして、定期船が9割、それから1割がトランプという分野でございましたが、たまたま私はライナーの方に居りまして、償却前赤字という非常にミゼラブルな時代でございました。これは商船三井さんも、生田さんとかもそうだったと思いますが、大赤字をこいてそれでもやっていたと、元気を出して。

ところがこの部隊が40名位おりまして、その中にトランプを担当されている方が4名おられました。これは私どもの何年か10年位の先輩でございまして、この4人が非常に大きな声で、商売を午前中やって、午後から甲仲さんに来て頂いて、いろんな仕事のサポートを頂いたというのを目の当たりに見まして、償却前の赤字、それからこのトランプの方はうまくいけば黒字、それでもまあトントンだという話でございました。それでもウチの会社の債になりまして、収入で言いますとライナーが9でトランプの方は1割ぐらいでございましたが、この社内の明るさが全然違うんですね。そっちで稼いで頂いてるもんですから。今、それからどうなっているかということでございまして、40数年経ちまして、私どものトランプの分野の陣容は約200名でございまして、従いまして50倍になっているわけでございます。それから売上のほうは、これは細かくはちょっと申し上げられませんが、当時の300~400倍になってるんですね。

ということでウチはトランプ部門は大変後発で

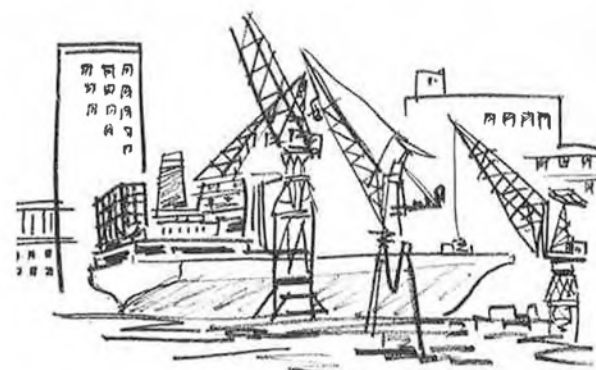
ございます。三井さんはもう先発でやっておられた、飯野さんも元気よくやっておられたということでございまして、ここにお出での皆さんの船会社の方々は、ウチよりずっと先発でございまして。ウチは最後尾から皆さんに追いついて何とかやってきたわけでございますが、その時のことを先週皆さんのお見えの場所で考えましてですね、感慨無量でございました。

そういうことでここまで私どものトランプの成長といいますか、育てていただきましたのは、これ偏に皆様のご協力、ご支援のお蔭でございまして。この席を借りまして厚く改めて御礼を申し上げたいかように思っております。

現下のこの海運市況は、大変悪うございます。ミゼラブルでございまして。先程担当に聞きましたら、ちょっとビクビクしているが、これから先半年一年はひよっとしたら明るいかもしれない、と

というような楽観的なことを申し上げておりましたが、そうイージーじゃないと思います。ですけど、この市況悪、それから私どもが一番デカイ円高。それからバンカーが倍になっております。収支はここんところ急降下しております、社内でも大問題になっておりますが、ま、こんなことでは私どもメゲません。元気を出しまして、来世紀に向かって頑張りますので、どうかここにお出での皆様に引き続き、今まで以上に強力なバックアップ、これをお願い申し上げたいと思います。

ちょっと長くなりましたが、松井さんからは、このお話を引き受けるに当たって、アナタには話の機会を与えるけど、ショートスピーチだということで、言明されておりますので、どうかこの辺で切り上げますが、一つ皆様のご繁栄を祈念しまして、御挨拶といたします。どうもありがとうございました。



「船社代表祝辞・乾杯」

社団法人 日本海運集会所 会長 友國 八郎



“乾杯の音頭”をとる友國日本海運集会所会長

海運集会所の友國でございます。日本海運仲立業組合創立40周年、おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

日頃は私ども海運集会所の主要メンバーとして、大変ご尽力を頂いております。これも併せて御礼申し上げます。さきほどの石川さんじゃないですけども、松井さんからはもう「ショート、ショート、ショート」と言われている。大体乾杯であんまり挨拶すると言われておりますが、ご指名でございますので、乾杯をさせて頂くとして、私も何もお話しするつもりは無かったんですけども、ちょっと5、6年前のことを思い出しまして。

私の商船三井の前任者でもございます某々会長は、組合の皆様方にこんなこと言ってるんです。今から思うとゾッとするんですが。組合の皆さんに船会社景気悪いからもう申し訳ないと、いずれマーケット良くなって、船会社が儲かるようになったら、皆さんに一席設けて畳の目が見えないくらい芸者を呼んで大祝杯を挙げようじゃないかと、こういうことをたまたま6年位前、私は同席しておいて、大変、今思うと本当に空手形、空手形じゃないんだ……、手形であったと思うんです。

今日、その長老の佐々部さんとか松田さんとか河南さん、見事に覚えておられて、あれはやっぱり空手形にしたら大変だということで、まあ、これはただあくまで本人が切った手形で、海運集会所が切った手形ではございません。まあ、なんとか空手形にならないように、このマーケットが良くなって、皆が儲けて、それで皆で勝利の祝杯を挙げる日が早く来ることを祈っております。

それでは乾杯の音頭を取らせていただきます。日本海運仲立業組合の益々の御発展、そして本日もご列席の皆様のお健勝を祈念いたしまして、乾杯と致します。御唱和お願いいたします。乾杯。



左から高橋運輸省海上交通局長、生田日本船主協会会長、石川日本郵船副会長、友國日本海運集会所会長



左か松井理事長、大里副理事長、島津副理事長、水元常任理事、藤村常任理事、坪川常任理事



左から坪井総括補佐官、松井理事長、春成海事産業課課長、西村室長、川畑理事



左から石川日本郵船副会長、高橋日本海運集会所理事長、友國日本海運集会所会長

左から島津副理事長、松井理事長、友國日本海運集会所会長、川畑理事



左から鷺見新和海運社長、松井理事長、高橋日本海運集会所理事長

The Shipbroker's Association of Japan
40TH ANNIVERSARY PARTY



左から西村室長、川畑理事、春成海事産業課課長、大里副理事長、松井理事長、島津副理事長、坪井総括補佐官



左から長野日鉄海運部長、川原日本郵船取締役、川畑理事、森日之出汽船取締役、大隅日鉄海運常務、中川日之出汽船取締役、小林日之出汽船社長



左から中川日之出汽船取締役、森日之出汽船取締役、小林日之出汽船社長、川畑理事

The Shipbroker's Association of Japan
40TH ANNIVERSARY PARTY



左から大隅日鉄海運常務、松井理事長、小林日之出汽船社長、寛日本郵船グループ長



左から登坂第一中央汽船常務、松井理事長、三宅東海商船社長、菊間商船三井専務



左から松井理事長、三宅東海商船社長、菊間商船三井専務



左から西村理事、川原商船三井常務、川畑理事



左から川畑理事、乾乾汽船社長、友国日本海運集会所会長、大原大原海運会長



左から川畑理事、松井理事長、島津副理事長、乾乾汽船社長、松永東京タンカー社長、坪井常任理事



左から中川日之出汽船取締役、森日之出汽船取締役、小林日之出汽船社長、川畑理事

The Shipbroker's Association of Japan
40TH ANNIVERSARY PARTY



左から大隅日鉄海運常務、松井理事長、小林日之出汽船社長、寛日本郵船グループ長



左から登坂第一中央汽船常務、松井理事長、三宅東海商船社長、菊間商船三井専務



左から松井理事長、三宅東海商船社長、菊間商船三井専務



左から西村理事、川原商船三井常務、川畑理事



左から川畑理事、乾乾汽船社長、友国日本海運集会所会長、大原大原海運会長



左から川畑理事、松井理事長、島津副理事長、乾乾汽船社長、松永東京タンカー社長、坪井常任理事

左から川畑理事、福田第一中央汽船社長、松井理事長、登坂第一中央汽船常務、島津副理事長



荒木川崎汽船常務（左）と今岡日石三菱次長



松永東京タンカー社長（右）と松井理事長

The Shipbroker's Association of Japan
40TH ANNIVERSARY PARTY

左から笹岡徳丸海運常務、荻小田日本郵船副社長補佐、田村ナビックス近海社長、川畑理事



左から泰日本郵船副社長補佐、青山東燃タンカー常務、坪川常任理事



左から松井理事長、吉田川崎汽船部長、日石三菱米光氏、今岡日石三菱次長、高梨商船三井部長





左から島津副理事長、友國日本海運集会所会長、河南顧問、島津島津商店社長、マリントレーダー山田裕彦氏

The Shipbroker's Association of Japan 40TH ANNIVERSARY PARTY



40周年記念パーティー会場風景

寄稿

心の通った情報が発展の礎

第一中央汽船株式会社 社長 稲田 正三

日本海運仲立業組合の創立40周年をお祝い申し上げます。

40年前と云えば、1ドルは360円、原油1バーレルは2ドルの時代でありました。もう少し身近な例で申しますならば、当時電話は「呼び出し」が普通でしたが、今はご承知の通り「ケイタイ」が行き渡っており、殊に情報システムの発達には目を見張るものがあります。

この大きな変化の中で、貴組合が時宜を得た、的確な情報発信源としてたゆまぬ努力を積み重ね、その存在を不動のものとしたことに心から敬意を表するものであります。

私自身は海運業に身をおいてまだ1年の新参者ですが、日々の業務に於いて貴組合から、積荷と船を結ぶ情報は勿論のこと、良質な船腹情報に至るまであらゆる種類の情報を頂いていることはよく理解しているつもりです。

今日では世界中のニュースが瞬時に万人に届くまでになっていますが、誰でもが発信できる時代であるだけに、プロとしての発信源の重要性はま

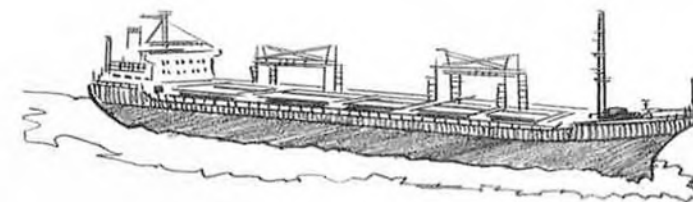
ずまず大きく、また一方受け手としてまさに玉石混濁の中から「玉」を選び出す感性が必須のものとなっています。情報といっても無機質なもののばかりでなく、重要な情報ほど心の



稲田 正三氏

通ったものでなければならぬと思います。貴組合と海運業が長い歴史をもつ不即不離の関係を確立しているからこそ、この情報化社会の中でお互いに発展していくことができると信じています。

海運仲立業というやや時代がかったと思える名称を、毅然として守っておられる姿勢のなかに、菱垣廻船・樽廻船の時代まで遡る歴史と実績を持つ自信の程がうかがえて頼もしい限りであり、50年、100年とつづきますますのご発展を期待申し上げます。上げる次第であります。



新世紀（あした）に向けて

出光タンカー株式会社 社長 岡村 善晴

日本海運仲立業組合創立40周年を心よりお祝い申し上げます。

タンカーの仕事に携わりおよそ30年になります。この間の出来事で今でも鮮明に覚えている事は、何ととっても第一次石油ショック時のマーケットの急騰急落だと思います。1973年3月産油国・メジャー・各国ブローカーを訪問し、港湾事情やタンカーマーケットについての意見交換を終え、やっと世界の情勢を把握しかけた途端にマーケットが急騰を始めました。当時は旧式のテレックスなので、各社の通信室に伺いテレックスを読みながら応答をしました。5月頃はVLCCがWS100を越し、10月にはWS200以上と今から思うと夢のような数字が流れてきました。それが2ヶ月も経たぬうちにWS50まで急落、僅か半年で天国と地獄を経験しました。また、顔面蒼白になった事を鮮明に思い起こします。この時ほど、ブローカー各社の皆様に色々とお教わった事はないと思います。実践を通して、様々な助言を与えて頂いた事が、現在の仕事に非常に役立っています。心よりお礼申し上げます。

最近、英国に駐在し、ロンドンのブローカーより教わった事は、今や船の仲立ちの他に、ファイナンシャル・アドバイザーとしての役割が急速に拡大している事でした。確かに事務所には船の仲立ちと同じスペースがファイナンス部に割り当てられ、コンピューターが為替や原油・製品先市況を瞬時に見られるように配置されていました。

今、日本でもあらゆる業界で合併・提携が行われており業界の垣根が取り払われ、大きな変革が起こりつつあります。

日本海運仲立組合が来るべき新世紀（あした）に向けて大変革され、益々発展される事を心よりお祈りいたします。



岡村 善晴氏



半世紀に向けて新たなる発展を —創立40周年を祝して—

日本郵船株式会社 副社長 白熊 邦章

日本海運仲立業組合が、本年で40周年を迎えられたこと誠に慶ばしく心よりお祝い申し上げます。

歴史の単位が十年一句切りといわれていますから、40周年ということは、すでに4つの大きな句切りを越えてきたという事で、仲立業組合の皆様も感慨ひとしおのものがあるものと思います。

日本海運仲立業組合が発足した当時は、世界はロンドンとニューヨークが大きな市場であり現在の東京のマーケットがこれほど大きくなると予想した人は少なく、今のこの巨大なる東京のマーケットの大きさを思う時、仲立業の皆様が組合を結成された先見の明に対し、敬意を表する次第です。

仲立業の役割を、縁の下の力持ちという人が多いのですが、私は潤滑油の役割も大きいと思っています。皆様もご存じのように、エンジンは、潤滑油がないとストップしてしまいます。船会社

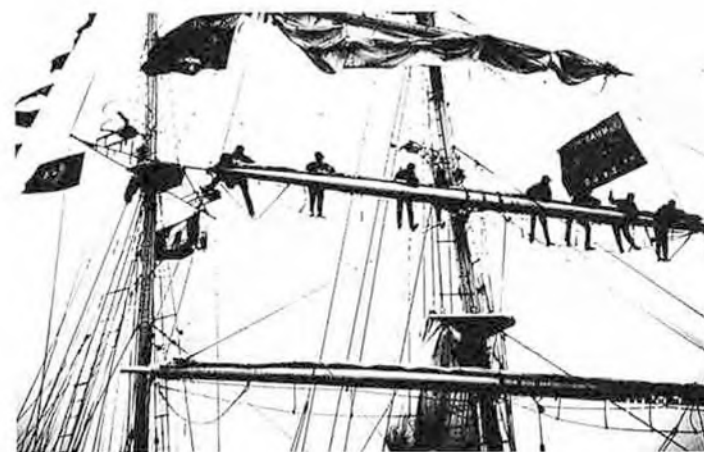
とのおお客様との間も、船会社の備船交渉の際に、時には潤滑油が絶対必要な場合があります。お互いの微妙な相違も潤滑油があるからうまく作用するものであります。そういう意味で、仲立業組合の皆様にご期待する事、大であります。

最近の日本経済を取りまく状況は、大変に厳しいものがありますが、この難局を乗り切らねば明日の日本はありません。是非ともお互い手を携えあって頑張っていこうではありませんか。

最後に、今後共、組合の皆様のご益々のご発展とご活躍をお祈り申し上げます。



白熊 邦章氏



寄稿

不定期船営業に ブローカーさんのご助言は不可欠

川崎汽船株式会社 社長 新谷 功

日本海運仲立業組合が創立40周年を迎えたことを、心よりお慶び申し上げます。

貴組合は1959年に東京海運仲立業組合として会員11社で発足されたと仄聞しておりますが、その後、日本海運仲立業組合に発展され、現在、会員数71社を数えるに至りましたことは誠に同慶に堪えません。

この40年を振り返ってみますと、海運集約、数度の中東戦争と石油危機、ニクソンショックに端を発した通貨の大幅な変動、高度成長から低成長時代への移行等、幾多の荒波に揉まれながら日本海運が何とか乗り切ってこられましたのも、貴組合会員の皆様と文字どおり苦楽を共にしながらタイムリーなご助言ご提言を頂いた賜であり、改めて心から感謝の意を表する次第です。

昨今、情報通信分野の発展はめざましく、種々の情報がリアルタイムで世界を駆け巡る時代となりましたが、ともすれば情報の取捨選択に貴重な時間を浪費する弊害もでているのではないかと思います。

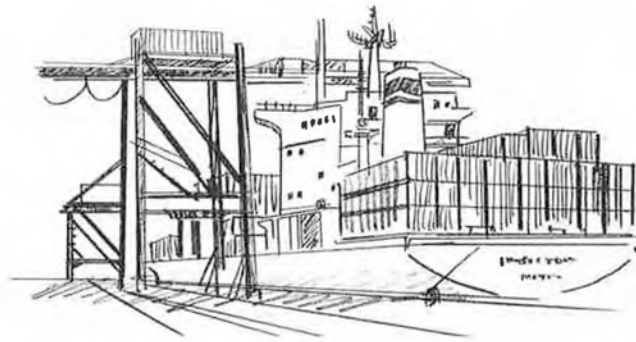
います。こうした中であって、豊富な知識と経験をもって個々の船社の要望に合い、ビジネスに直結する貴重な情報を提供して頂けるブローカーさんの役割は、不定期船営業をスムーズに遂行して行くうえで欠くことのできないものでありますので、更なるご助力を切に願います。

海運業界もこれから決して平坦な道ばかりではないと思いますが、お互い切磋琢磨し、更に知恵と汗を出し合えば、自ずから道は拓けるものと確信しております。

貴組合の一層のご発展と会員の皆様の益々のご活躍を心からお祈り申し上げます。



新谷 功氏



寄稿

ブローカーズマインド 失うことなく邁進を

新和海運株式会社 社長 鷺見 嘉一

日本海運仲立業組合が本年創立40周年を迎えられた事、心よりお慶び申し上げます。顧みれば、戦後壊滅状態にあった日本海運が、今日世界有数の海運国になり得たのは、日本経済の高度成長による所、大ではありませんが、その陰で戦後いち早く集荷活動に力を注がれ、船社の配船に寄与された海運仲立業の皆様のご努力なしには、有り得なかったと思います。

そして今日、貨物、備船、船舶売買等の分野において、東京マーケットをロンドン、ニューヨーク市場に並ぶ、或いは勝る迄に成長させました。これは日本海運仲立業組合の皆様の国内市場はもとより海外市場への飽くなき開拓の血と汗の結晶が東京マーケットを完熟させたと言えましょう。

私自身、ロンドン在勤中しばしばボルチックエクステンジに行き、多くのブローカーと接し、またボルチックのサークル活動にも参加した経験があります。そのボルチックは1744年設立以来255年の歴史の下、現在約670社、1340名がメンバーとして活躍しているとの事ですが、ボルチックのモットーは『OUR WORD OUR BOND』という英国海運華やかりし頃の、将に、ジョンブル精神からくるブローカー魂に溢れた自負心ある言葉だと思っています。

一方、日本海運仲立業組合は、40年の歴史と71社の加盟と聞いております。歴史の浅さとメンバー数からは、ボルチックに及びませんが、今日、ボルチックが、実態面では、かなり形骸化されつつある事、日本を含めたアジア諸国の台頭で、海運市況は益々分散化される傾向にある事を考えますと、今後東京マーケットの重要性は益々高まる

でしょう。

海運仲立業の先駆者であるボルチックの、この『OUR WORD OUR BOND』は、世界共通のブローカーズマインドであって欲しいと思います。

日本海運仲立業組合の皆様も、是非こうしたマインドで、東京マーケットの信頼性を更に高めるべく、一層のご活躍、ご発展をされん事を切望いたします。



鷺見 嘉一氏



アフラと3人の仕掛人 (秘話)

三光汽船株式会社 常務取締役 松井 毅

入社してから今日に至るまでの35年間、ひたすら営業だけをやらせていただいたおかげで、たくさんの方にお目にかかることができ、大変光栄に思っております。中でも、当社のアフラマックス・タンカーに係わられた3人の方の忘れることのできない秘話を、この際、この紙面をお借りしてご披露させていただきたいと思っております。

まず、TSLタンカーの内藤社長。まだオール商会におられた1972年、わずか2カ月間で61隻の用船を決められました。「パーブルースの記録更新」とか、また契約が総て10年だったことから「610年の契約をしたすごい奴」などと報道され紙面を飾っていました。おそらく未来永劫この記録は破られることはないでしょう。

これらの船は、1973年10月のエネルギーショックによるタンカーマーケット暴落にも拘らず、1974年から毎月2〜3隻のペースで続々と竣工・引渡しされました。これだけ大量の仕事をししかも短期間に纏められた内藤氏の情報力・人脈・交渉力にはただただ頭の下がる思いです。

次に、当組合理事長、松井商会の松井社長。1976年、TK SHIPPINGの故トーベン社長を紹介され、その場で95型1隻の用船を決めたのがそもそものTK社とお付き合いの始めでした。TK社にとっても本船が最初の用船で、それまでは、インドネシア/北米西岸の原油輸送はスポットでカバーされていました。その後少しずつ隻数が増え、1985年8月当社が更生法を申請した時点では12隻に膨らんでおりました。

破産後船は世界中のあちこちで差押えられる

し、また債権者の了解を得て稼働可能であった船も、信用失墜のために全く成約できない状態に陥っており大変困っておりましたが、これらの船をまとめてTK社に用船にだす橋渡し

しをしてくれたのが松井氏でした。結局その年の暮れには総計19隻が用船に出され、それらの船の安定した収入のおかげで年を越すことができました。

最後に、ユニバーサル・シッピングの山宮社長。シェル向けアフラ新造8隻の成約に携わっていただいた人物。大変誠実な人で、しかも美声の持主。NYの有名レストランでバックバンドを従えて絶唱し満場の拍手を浴びた話は今でも語り草となっております。1988年の成約・発注といえは未だ更生計画認可前。債権者のご理解を戴くのに大変苦勞を致しましたが、メジャーとの契約を得て新造船が実現できたことは大変喜ばしい出来事でした。

3人の方に共通していえることは“男が惚れるいい男”というところでしょうか。

ともあれ、創立40周年誠におめでとうございませう。如何に情報化が進もうとも、やっぱり人。人と人の繋がりを大切にしながら共に頑張ってやっていきたいと思っております。会員の皆様方の益々のご健闘を心からお祈り申し上げます。



松井 毅氏

日本海運発展のため
若い人の育成に助力を

株式会社商船三井 副社長 山下 真一郎

日本海運仲立業組合の創立40周年を、心よりお祝い申し上げます。

昭和34年に創立され早くも40年との事ではありますが、昭和34年は丁度私が入社し海運人としてスタートした年であり、貴組合の歩みと同じ時期を歩んで来たこととなり、なにか感慨深いものを感じております。

この40年は日本海運にとって正に激動の時代でありました。

中でも海運界にとって最も大きな影響があったことを一つ上げると言われればやはり1971年に360円だった為替レートがスミソニアン合意により308円になった事をきっかけとする円高でありましょう。既に1964年に海運界は海運再建整備法に基づき主要海運会社97社を6グループに集約する合理化の第一歩を踏み出しておりましたが、その後の度重なる円高により、更なる厳しい合理化が迫られ、生き残りをかけた戦いの連続でありました。

その間貴組合も正に同じ波をくぐってこれ、我々と苦楽を共にされてこられました。その間に陽に我々を支えて頂きましたことをここに改めて御礼申し上げる次第であります。現在経営環境もよりグローバルな国際競争に立ち向かう為の厳しい戦いが継続されております。我々もあらゆる努力を傾注する中、特に顧客にたいするサービスの向上、商権の拡大に全力を上げておりますが、その点で特に皆様の一層のご協力を御願ひする所でございます。次にこれは35周年の時もお願ひ申しましたが、海運界の特に不定期、タンカー部門の若い人材が最初に社外の人に接するのが貴組

合員の方の場合が多いと思われませんが、どうか色々の知識を与えていただき、その人の営業努力を助けて頂く願ひ申し上げます。これからの生き残りの戦い

において、若い人をどう育て力をつけさせて行くか、大切なポイントの一つであり、その為には特に皆様のご協力が必要であります。どうぞ宜しく願ひ申し上げます。

コンピューター、インターネット等の発達により、世界の情報伝達力は40年の間に格段の進歩を見ましたが、所詮我々の商売は“人と人”であります。その人と人を繋ぐ大切な仲介役としてこれからも（年々海運を取り巻く環境も変化していきましようが）貴組合が日本海運発展の為十分にその役割をはたして行かれることを念じつつお祝いの言葉とさせていただきます。



山下 真一郎氏

諸先輩の労苦を思い バトンタッチできる努力を

シーダム・ SHIPPING株式会社 大里 隆司

私が当組合の理事を引き受けてから既に10年になります。その後半の5年間は副理事長としてその任務を全うしてきた積もりですが、常に考えていたことは果してこのままで良いのだろうか?と云うことでした。

毎年一度の組合主催の懇親パーティ、局長・大臣表彰、並びに褒章表彰の推薦、候補者の選出、そして年2回の甲会(ゴルフコンペ)というのが正直なところ主な組合の仕事でありました。恐らく外部から見てもその程度の評価であったと思っています。

しかし、ここ数年の組合活動のなかには“研修会”を年に約6回程度組み入れて勉強会のような事を行っています。海運マーケット、外為マーケットそして時には政界の話やプロゴルファーの裏話等、その道のプロを講師として迎え、内容的にもかなり充実して興味を持てるものとなってきましたので、まだ参加されておられない方はぜひ一度、出席されたら如何でしょうか。

組合加入者は30社程減って、現在70社となっています。年々その数は減る傾向にありますが、如何なる業界にあっても必ず同業者の協会や組合があります。世の中、何時何が起こるか分かりません。有事の際その時になって組織を作ることは困難な事でしょう。諸先輩方は40年前にそう思ってこの組合を作ったのではないのでしょうか。

インターネット等の普及により我々ブローカーの職域も徐々に狭まって来つつあることも残念ながら事実であると思います。今、この組合を無くすことは海運業界において我々ブローカーの存在を否定するような結果に成らないだろうか?個

人、或いは1社では今日のような目まぐるしく変化する社会状況の下でよ的確な判断、情報収集を、プロフェッショナルにこなすことは大変困難なことと思われれます。

我々ブローカーは、基本的にはお互いにコンペティターではあるが船主や荷主に対して常に満足のいくサービスを提供すると云う事に関しては、同じ目的を持っている訳で皆で話し合う場を持つことでお互いにレベルアップできるのではないだろうか?その様な事を考えているうちに10年経ってしまいました。

個人的には、当組合の更なる発展を望むことはかなり無理があらうと思うので少なくとも現状維持の状態です。次の方々にバトンタッチできるように努力せねば、歴代の理事長始め先輩諸氏に申し訳無いと思っています。

未加入社の方々には是非当組合に加入されます様、お願い申し上げます。



大里 隆司氏

消費税導入時の 皆様のご協力に感謝

大原海運株式会社 大原 慎二

日本海運仲立業組合が創立40周年を迎えたことに心よりお慶び申し上げます。

しかしながらこの間、日本経済は大きく発展してまいりましたが、バブル崩壊という大きな試練に直面し、いまだにその傷跡は各業界を大きく揺さぶっております。海運業界も運輸省指導による海運集約を始めとし合併、再編等、業界の地図は大きく変わって来ました。組合員の方々もこの間、大変な努力と苦勞を重ねて仲立業界の発展に寄与されてこられた事に敬意を表するものです。

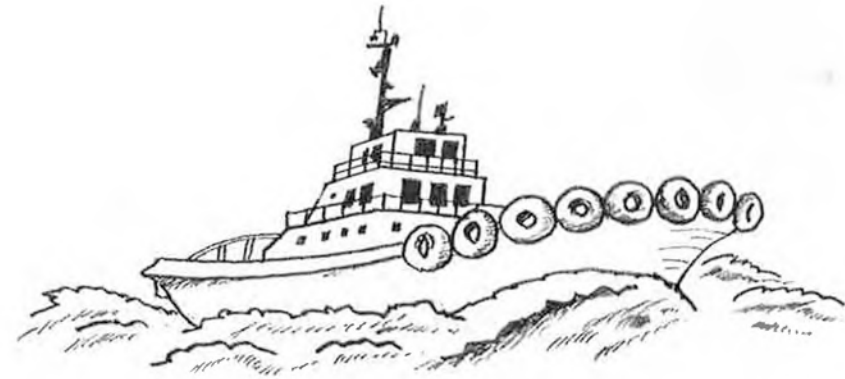
私は昭和62年から平成元年まで日本海運仲立業組合理事長を、おおせつかり微力ながら組合の発展にお手伝いをさせていただきましたが、消費税導入が平成元年4月よりと決定されるや仲介手数料

料に消費税をスムーズに導入するため運輸省のご指導を仰ぎ、公正取引委員会の特別認可、国税局・船主協会・各船主のご理解を得られたことは組合員の皆様のご協力の賜と感謝しております。

日本海運仲立業組合と組合員の皆様がかれからも益々ご発展されることを心から願っております。



大原 慎二氏



海運業界のため良き潤滑油の役割を果たしたい

川畑海運株式会社 川畑 繁明

このたび日本海運仲立業組合の創立40周年を迎え、組合の一員として心からお祝い申し上げます。

これも偏に運輸省をはじめ、船会社、商社各位のご指導ご鞭撻の賜物であり、誠に同慶にたえません。

思えば、40年という長い歳月は、諸先輩、歴代理事長、ならびに各組合員の皆さまの協力と努力による『仲立業をより発展させよう』とする活動の歴史であると思います。

私も仲立業の仕事をはじめて約40年。そこで学んだことは、仲立業の役割とその重要性は海運業の潤滑油になることだと思っております。船会社と荷主との間のピストンは潤滑油が良ければ良いほどスムーズに働き、はじめて評価されるわけです。

海外の海運立国における“仲立業”は、ファーストクラスのビジネスとして評価されています。組合創立当時の先輩の方々は、ロンドン、次いでニューヨーク、そして東京マーケットを夢みて、多くの困難をのり越えてこられたと思います。

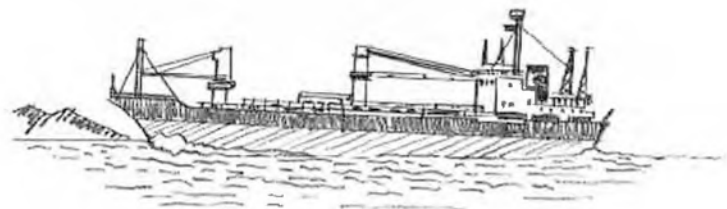
私は、平成2年から6年まで副理事長、理事長を務めてまいりました。私は、そうした先輩の成

果を大切に組合の存在価値をすこしでも高めたいと、運輸省のご指導のもとに出来る限りの努力をしておりました。学習活動、組織拡大、そして2年がかりで全国組織の組合として認知されるようになりました。また、海運一筋に仲立業に従事しておられる組合員の方々に一人でも多く社会的に評価してもらえることが出来れば、と努力しておりました。

そして、今、21世紀に向けて情報機器の進歩は目覚ましいものがありますが、どんなに情報社会が発達しても、『良い潤滑油』はなくてはならない重要な役割をもっていると思います。

諸先輩が築いてくれた組合を一層発展させるためにも、そして組合を構成するそれぞれの企業が豊かに前進するためにも、組合員全員が力を合わせて、その『良い潤滑油』の役割を果たさなければなりません。

私たちは、常に仲立業の存在価値を問われているということの認識を深め、21世紀にむけて気持ちをあらたに、ますますの研鑽を重ねることが必要だと思っております。



素踊り

株式会社マリントレーダー 河南 丈久

産業、サービス業、銀行等の大型合併や提携が相次ぎ、また、我々シブブローカーの得意としていた情報の分野でもサイバーネットの飛躍的発達により国内外において顧客主導の仕事が増え、また、従来のブローキングチャンネルに依存出来ない変化の大波が打ち寄せてまいり、我々の将来の真価を厳しく問われる大事な時であります。

「無一物即無尽蔵」という禅語がありますが、人間は無一物であることを悟れば豊かな発想が無尽蔵にわき出てくるということです。「無心に働く人の輝き」「なにも無い人の豊かさと強さ」。我々シブブローカーは生産設備や輸送手段といった顧客が日夜心労しておられるコストのかかるものは一切無く、元来まさに裸一貫無一物を地でいけば、憂うもののない強みがあります。

今や日本を代表するトップリーダーとなられた樋口広太郎様が、先般テレビの対談で、「情報とは情（なさけ）に報いることです。普段のつきあい、信頼があってこそ、この情報を流してやろうかということになる。良く動く人のことをわかってあげる人が本当の商人です」と語っておられました。仕事の厳しさやサイバービジネスを一番御存知の方のお話だけに感銘し意を強く致した次第です。

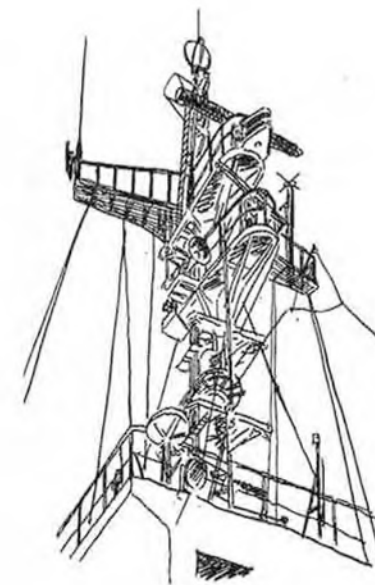
わが海運業界の大御長老であられた方が某シブブローカーの大長老を素踊り（すおどり）の達人と呼び「素踊りとは衣装、髪等一切何も身につけずに踊る究極の踊りのこと」と、まさに無一物無尽蔵の行き方をされた大先輩ブローカーを讃えられました。今は亡き両大先輩を仰ぎ見て私も常に顧客より情に報われるのに相応しい素踊

りの達人ブローカーたらんと目指してまいったつもりですが、道未だ遠しです。

わが愛する組合の創立40周年に当り組合と会員皆様の御発展を祈り顧客の御支援に深謝申し上げ慶祝の辞とさせていただきます。



河南 丈久氏



組合発展のためには固い結束 とたゆまぬ努力が必要

ファーイーストチャーターリング株式会社 小暮 信夫

日本海運仲立業組合創立40周年を迎え、心よりお祝い申し上げます。私もこの業界に入り、すでに34年が過ぎました。これも偏えに船会社の方々、備船者の皆様、そして同業各先輩諸氏の御指導・御鞭撻の賜物と深く感謝致しております。長い間には苦しい事、楽しい事が沢山ありましたが、最近になって過去を振り返ってみますと、苦しい事の記憶は薄れ、楽しかった事の方が多かったように思うようになりました。新会社創設以来、すでに7年が過ぎようとしております。経営の難しさや楽しさも、多少なりとも理解出来るようになって来ました。これも将来、振り返ってみて、楽しい思い出になってくれればと思っております。組合員の皆様も、どうか率先して組合の行事（理事会も含む）に参加し、出来る限り太い絆を作り、この不況の時期を乗り切って頂ければと、念じて

おります。勿論私達の業界は船会社の方々、備船者の方々のご協力無しでは有りませんが、私達ブローカー自身、切磋琢磨し、私共の取り引き先の皆様のお役に立つよう努力しようではありませんか。

今後、50周年、100周年と先輩諸氏の意を汲み、益々組合が発展し、海運業界にとって、ブローカーが「必要欠くべからざる」ものになって欲しいと思っております。

最後に、組合員の皆様方の益々の御健康と御活躍を心より祈念申し上げます。



小暮 信夫氏



雑草魂

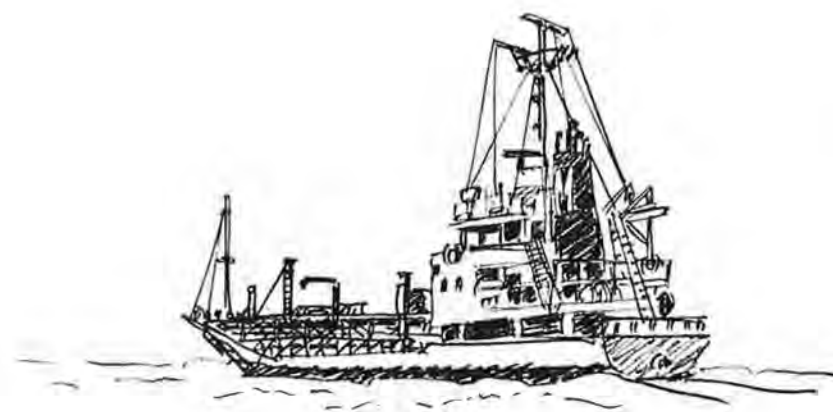
株式会社島津商店 島津 頼明

創立40周年誠にお目出とうございます。心よりお祝い申し上げます。これもひとえに松井理事長始め役員各位、事務局のご努力に感謝申し上げる次第です。組合員も今日世代交替三、四代また新進の組合員等移り変わり、5年前の祝典時のご来賓また組合の長老、代表者の変遷、日々年々変化に驚かされる今日です。平成初期から早11年、21世紀目前永いバブルの崩壊後やっと前途に明るさが見えてきた現在、雑草の如く困難に打勝って来た事はひとへに組合の恩恵に浴し、寄与した組合員の精神力のたまものと信じています。最近のプロ野球セパの活躍ベナント争い、巨人ルーキー「上原」曰く「勝ちたい」此の一言、「雑草魂」。いくら強力な大砲、伴侶の捕手に守られても投手の精

神力ほかありません。我々は1シーズンでは無くエンドレス、先は永いのです。組合の前途益々の発展と50、60、70周年永く恩恵戴き、我々一同多いに寄与する事必須です。私事乍ら2000年問題も経過し21世紀の初頭迄は何が何でも雑草の如く邁進する事至上と念じる次第です。



島津 頼明氏



節 目

宝運 SHIPPING 株式会社 坪川 經大

日本海運仲立業組合が、今年で創立40周年を迎えることができましたのは、誠に喜ばしいことと思っております。歴代の理事長及び役員事務局の皆様のお苦勞に対し、感謝の気持ちを申し上げたく存じます。

弊社も創立以来のメンバーの1社として、亡父坪川經二をはじめ3名の社長が、理事長の大役を仰せつかり、何とかその時代時代のニーズに応えるべく努力して参りましたことを誇りに思っております。

私は昭和44年大学卒業後即入社し、今年をもちまして勤続30年の節目を迎えることができました。諸先輩からご覧になりますと、まだまだ「鼻垂小僧」の域を少しも越えておりませんが、社長職を引き受けて了度10年これもまた節目の年であります。私の社会人生活30年の内、はじめの20年は、タンカーブローカーとして、ただ、がむしゃらに前に進んでまいりましたが、この10年は他の部門の勉強もはじめ、何とか話だけはついていける様になりました。また、平成6年からは役員の

端くれとして、仲立業組合の皆様とも親交を深めさせていただき、励ましとお叱りの言葉を諸先輩から、頂戴しまして、この40周年という仲立業組合の節目を迎えることができましたのは「感懐ひとしお」のものがございます。

最後になりましたが、日本海運の更なる発展のために、また顧客として御支援いただいている船社、荷主の皆様のためにも、世界経済様々な動き、傾向に注目し、1社では出来ないことを、仲立業組合として、まとめて海運業界のために英知を結集して、次の節目まで駆けぬいて行こうではありませんか。



坪川 經大氏

デフレ経済下の日本
我々海運の未来に明るさも

有限会社轟木海運事務所 轟木 保廣

〔海運業に変革を齎した3大事件〕

この40年の間に海運業に構造的変革を齎したものと下記3つの事件があり、1回目がエネルギー革命(エネルギー源が国内炭より石油に変更)である。これは油送船時代の幕開けであり、原料輸入に便利な大型臨海製鉄所や精油所等の建設が進み、船舶の大型化と日本の高度成長を齎し引いては海運集約の6中核体の体制を確立させた。2回目がオイルショックである。これは高度成長の終焉であり、大型油送船市況の破綻による油送船主体の企業の没落と同時に、一般炭の輸入開始、省エネの日本の車の輸出用PCCやLNG船が脚光を浴び、特にPCC及びLNG船への進出に成功し、収益性に差異を付けた企業による、大手3社体制が確立された。3回目が急激な円高とその後遺症である現在のデフレ不況である。これは経済の成熟段階への到達を意味するものであろう、これが日本海運に何らかの変革を齎すのは避けられないと思われる。

〔デフレ経済発生の背景〕

戦後初のデフレ(日本を中心とした東南アジアに顕著に出ている)に遭遇し、そこからの脱却に苦勞しているが、このデフレは日本の円高の後遺症と見るべきだと思われる。即ち円高(デフレ要因でもある)は日本に過剰流動性を齎し、バブルを発生させ金融業を中心に不動産や株式含み損等の大量の不良債権を発生させ信用縮小と言うデフレ経済の一つの元凶となっており、更に円高は日本の産業(製造業)の東南アジア等への海外投資の増加を引き起こしたが、これは投資先の安い労働力が、商品価格に組み込まれたことと、日本の

設備が温存された仮であった為、過剰設備状態が続き商品の価格低落が継続し、デフレ経済を齎しているものと解釈すべきで、根元は先般の円高に起因していると思います。



轟木 保廣氏

このデフレ経済は、タイに発したアジアの経済危機により顕在化した。これらのアジア諸国は、日本型の経済発展を志向、急激な経済発展と\$ベック制によるバブルの発生、その反動として日本より厳しく過剰設備の顕在化、バブルがはじけた後遺症として急激な信用縮小を齎した。日本とあい携えて、デフレスパイラルを発生、一時は1939年の大恐慌の再来も予想される程であった。

〔デフレ経済が構造的変革を齎すこと〕

日本経済の問題点としては、過剰な設備・雇用・債務の存在が言われているが、これはデフレ経済に顕著に表れる問題であり、この解消の結果として日本経済の構造的変革を齎すものであろう。

イ) このデフレ不況からの脱却は、上記の過剰面の縮小が必要で、大恐慌が大量の消費を伴う第2次世界大戦の発生により終息した様に、長い時間と痛みを伴うことが多い。

ロ) 痛みを伴うサバイバルゲームの結果として、生産性が高く信用力の強い企業が残り寡占化の方向に進む。

ハ) 寡占化が進む一方では、得意部門に集中する

専門商社の例の様な専門企業が生まれ二極化へと進む。

二) 企業の評価が、売上高競争ではなく、収益性尊重の経営に変わらざるを得なくなる。

これらのデフレが齎す傾向は海運界も無縁ではなく、少数の大企業と専門に特化し安定したインダストリアルキャリアーの二極化の方向へ暫くは進むと思われる。

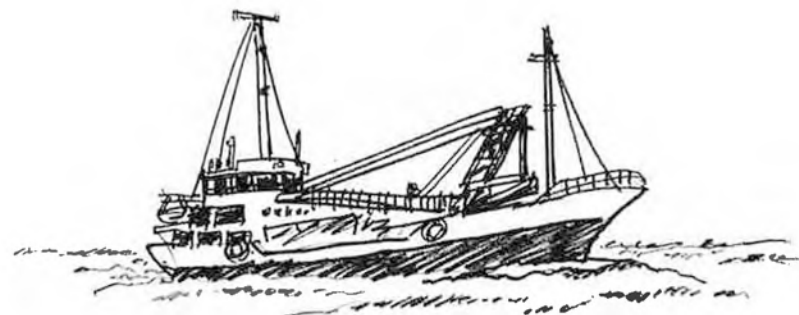
〔結びに代えて〕

寡占状態が強くなった現在の日本の海運が、最終の姿なのかどうかは疑問である。巨大装置産業に近い定期船部門を除き寡占化の維持が困難な業界である。それは海運には国境がなく外国の船社の進出が比較的容易であり、そして港を持っている国には必ず海運業が生まれ、然も、小資本でも業界に新規参入可能なシステムも確立されており、ビッグバン時代にもマッチした頗るベンチャー的要素を持っている業界であるからである。更に成長が止まり成熟した経済の特徴としての終身雇用の維持が困難で労働力が流動化しつつあり、ノウハウの分散化が避けられず、従って新規企業

の参入もより容易になることが予測され、新たな展開が見られると思われる。

またデフレ経済からの脱却に関しては、造船の過剰設備の問題はあるが、海運は他産業に比較し容易である。それは商品であり投資対象である船舶が、25年程度で物理的に劣化し市場から消えることであり、(今回は主な要因としてはデフレによる) 市況悪化は、スクラップ化が早まり、新造船の発注が減少し自律的市況回復力を持っているからである。例えば劣化しない土地に過剰投資した不動産業や、過剰設備を抱え廃棄が難しい巨大な製造業とは明らかに差異があるのである。

以上の様に新たな展開と自律回復能力のある海運の未来は、悲観一色ではなく新たな展開が生まれる明るさを常に潜在的に持っており、海運の一翼を担っているブローカー業界としては、デフレ経済下の海運がどう発展変化して行くのか、我々はそれに如何に対応して行くのか、新しくテーマを与えられたことにむしろ感謝すべきかも知れない。



寄稿

日本海運発展のため 皆様ともども全力を傾注

株式会社セントラルマリン商会 長尾 孝道

このたび、日本海運仲立業組合が、日出度く創立40周年を迎えられることとなり、組合員と致しましては洵に御同慶に堪えません。

時あたかも1900年代最後の年に当たっておりまして、いろんな意味で極めて意義深いものがあると感じております。

私がこの業界に入りましたのは、1965年ですが、当時は「海運」という言葉を知っている程度で、その前年に行われた海運集約についても、入社後その事実も内容も先輩から教えてもらう始末でした。顧みて汗顔の至りであります。

爾来34年、世界を相手にする海運業の一翼を担うこの業界で何とか頑張って来られましたのも、偏に、当組合を通じて知遇を得ることになりました他社の諸先輩方から、仲立業に関する事のみならず、海運業の巨細に至るまで懇切にご教示を賜わった結果でありまして、改めて厚くお礼を申し上げたいと思います。

私は、1991年、92年の2年間理事を拝命しました。バブル経済の崩壊、湾岸戦争の勃発・終結、ソ連邦の崩壊等、政治、社会、経済すべて激変の時期でした。それ迄の皆様の御好意に些かでも報いるべく、微力な自らを励まし乍ら、精一杯努めさせていただいた記憶が残っています。

この40年間、大戦後の日本経済の、また日本海運業の消長の中で、当組合を現在の姿にまで発展、充実させてこられました歴代の理事長をはじめとする役員各位、そして組合員の皆様様の御努力に対し、深甚なる敬意を表したいと思います。

その間、船会社、商社、需要家の皆様更には、関係官庁の御理解ご信頼も併せて得ることが出

来、そのシンボリックな事柄として、組合員の中から褒章を頂ける迄に至りました。

弊社の前社長の石川が、94年にこの栄に浴しました折、社員一同、皆様の御配慮に対し深い感銘を受けました事を、昨日の出来事の如く思い出します。

21世紀まで残すところ1年余の現在、グローバル化を主題として、厳しくも激しい経営環境の荒波が狂奔しているというのが実情でしょう。

私共仲立業者も「海運」という日本経済にとってかけがえのない輸送手段の重要性を噛みしめながら、その発展の為に、組合員の皆様ともども全力を傾注して行かなければならないと考えます。



長尾 孝道氏



感謝をこめて

山水海運株式会社 羽島 恵子

組合創立40周年誠におめでとうございます。役員、組合員の方々の今日迄のご苦勞、ご尽力、私のごとき一女性社員には想像も及びません。この様に伝統ある会報に寄稿をとのご依頼、ためらいつつ、拙文をしたためました。

さて、私事で誠に恐縮ですが、昭和48年に山水海運に入社し、数年後に穀物積み運航関係の仕事任せられ、上司の方々、ブローカーの方々の仕事ぶりを側で拝見しながら、見よう見まねで今日に至っております。

最初におつかった私にとっての困難は「女性である」という事でした。当時は、まだまだ女性が電話で商社、船会社の方々とCHARTER PARTYのTERMの解釈に関して議論をしても、なかなか利害関係の相反する両者との間で結論を出す迄に四苦八苦し、毎日を無我夢中で過ごしていました。そうして、暫く経って、商社の方々に「明日からポートランドに転勤になります。今まで、色々教えて頂き有り難う」との電話を何度となく頂く様になり、その度に仕事をしている喜びを感じ、女性である事のハンディも少しづつ消えてゆきました。

時を重ねるにつれ、そして時代の変化により女性の社会進出も進み、私自身、次第に仕事もスムーズに処理出来る様になりました。これも偏にチャンスを与えてくれた会社、ご指導頂いた皆様、そして取り引き先の皆様のご支援のお陰と感謝いたして居ります。

OA機器の急速な発達を利用し、スピーディーに、正確なサービスが一層出来る様になりました。海運仲立業界に於いても女性の活躍出来る範囲も

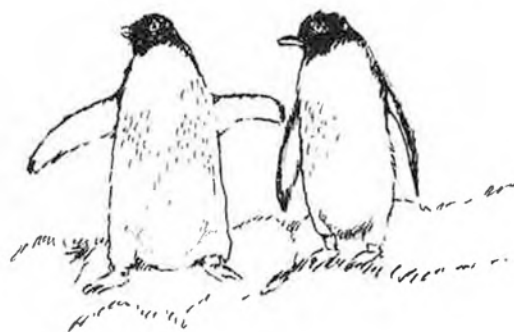
広がります。企業の生産性の為にも、またブローカーが一船でも多くFIXTUREが出来る様に裏方の力となり、今後も長年積み重ねた経験と女性という特性を活かし、きめ細やかで、

取り引き先の方々に喜ばれる質の高いサービスを提供させて頂きたいと励んでおります。

新しい世紀に向け、貴組合のますますの発展を心からお祈り申し上げます。



羽島 恵子氏



海運仲立業組合設立40周年を祝して

株式会社郵船エージェンシー 風当 一郎

日本海運仲立業組合創立40周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

40年という歳月を人間の一生に置き換えれば、正に壮年として油ののりきった活躍の年代かと思えます。

海運仲立業という業種は、人と人を継ぐ最も苦勞の多い仕事かと思えます。そういう業種であればこそ、同じ仕事をする面々が共に集う意義も深いものと思えます。

私は長年船会社に身をおいており、仲立業はごく最近仲間入りさせて頂いた駆け出しです。仲立業は、船会社と異なり、マーケットの動きを直接受ける本当に厳しいビジネスと思えます。

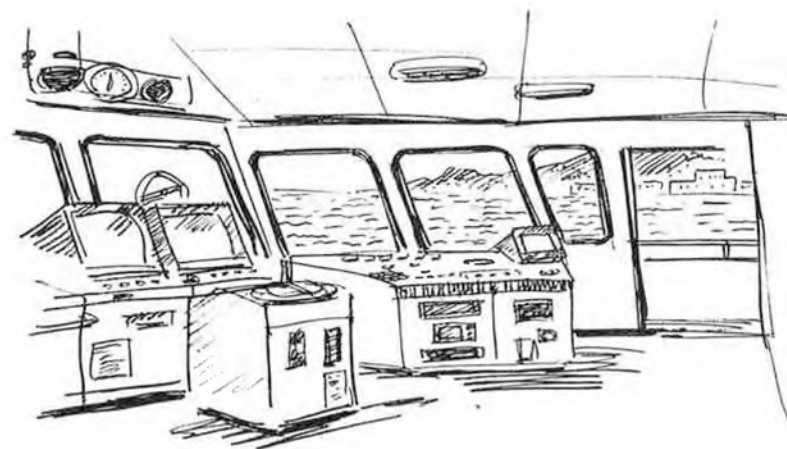
私の船会社生活で、不定期船関係の仕事に携わったのは、ほんの短期間でした。その乏しい経験の中で、昭和48年のオイルショック前後のタンカーマーケットの厳しい動きは、大変印象に残っております。48年の後半は、原油不足を懸念して荷

動きが急増、マーケットが見る間に上り、一航海で船価の何十パーセントも回収できるレベルになりました。ところが、年が明けるとマーケットが一気に下り、係船や売船の話ばかりになってしまいました。この様な厳しい環境の中で仕事を続けるのは、身が幾つあっても足りないのではないかと思いました。この様な環境の中で、長年活躍されている皆様のご努力に、敬服するばかりです。

新たな世紀21世紀も間近に迫っております。これからも様々な困難が、待ち受けていると思えますが、皆様のご益々の発展をお祈り申し上げます。



風当 一郎氏



組合員の自己研鑽の場

—創立40周年を迎えて—

福洋海運株式会社 福井 幸治

日本海運仲立業組合の40年のあゆみを振り返りますと、1990年以降には組合活動として分科会、研修会が紹介されております。私は昭和62年に組合に参加した直後より研修会を担当して参りました。創立40周年の会報発行にあたり研修会の変遷をご紹介申し上げます。

〔組合の歴史〕

平成2年に組合分科会をスタートさせる以前は、所謂研修会は組合青年部の行事として行われておりました。青年部の歴史を振り返りますと、組合発足の3年後の昭和37年に創設されております。その後青年部は、日本経済の拡大と、また海運業界の発展に遅れをとらぬよう、海運実務の勉強会を続けてきたと聞いております。そして、その当時の青年達が現在の組合幹部であることを思いますと、当組合の研修会も長い歴史を積み重ねて来たのだと改めて思う次第です。

〔転換期〕

1990年（平成2年）2月に組合分科会実施が決まりました。これは、貨物船第1、第2、タンカーの3部会を設立し、それぞれの部会が毎月順番に年間計9回の分科会を開くというものでした。また、同時に青年部は発展的に解散しそれぞれ分科会に参加することになりました。

組合員の中にはご記憶の方もおられると思いますが、この時期何度かアンケート調査を行った結果、組合各社の人員構成が非常に高齢化に向かっておりました。そこで事態に危機感を持った当時に理事長（19代大原氏、20代佐々部氏）が、まず、組合員全員が参加できる場を提供すること、さらに数少ない青年層会員にも会合に参加してもら

うとの思いで始められたことでした。

私も初代の部会担当となりましたが、海運マーケット、外国為替等の勉強のみならず、「組合間での情報交換の機会をいかに拡大させるか」「組合諸先輩を囲む座談会」「 SHIPPINGブローカー業界の現状と将来」等々、会員が忌憚のない意見を交換できる場に研修会（分科会）は成長を遂げたように思われました。

〔勉強会（分科会）から研修会へ〕

その後年9回のペースで続けられてきた分科会は、平成10年度より海運、経済のテーマ以外にも会員皆様から関心を持ちそうな一般的テーマを取り入れるべく、名称を研修会と改めました。限られた予算での運営であり、年5、6回に絞りこんだ開催となりましたが、少しでも内容を充実させるべく、担当者一同頭を抱える日々を過ごして参りました。限られた開催回数ですが、毎回30～50名の出席をいただき、組合員が顔を合わせる数少ない機会を提供する研修会ですので今後の継続、発展を心より願う次第です。

最後になりましたが、この様な研修会を続けられましたのは、常に快く講師を引き受けて頂いた、お役所、海運、造船会社、銀行、その他多くの方々、そして毎回ご参加頂いた組合員の皆様のご協力有らばこそと痛感しております。40周年の節目の年にあたり改めて感謝申し上げます。

現実を直視すれば未来は開ける

—創立40周年を迎えて—

山水海運株式会社 増田 晴男

組合創立40周年。誠に御同慶の至りであります。顧みれば当組合が大原、増川、野原等諸先輩の創意、努力によって成立して以来今日に至る迄着実な歩みを続けてこられたのはひとえに歴代理事長以下各組合員の絶ゆまざる努力並びに深い御理解を賜った得意先の方々の御協力に依るものであります。

その40年間に起こった日本海運に関する主な出来事を思い出しますと、

①1963年から1964年にかけて政府主導による第1回の海運会社集約による6中核体の誕生。（これにより我々ブローカーにとって少なくとも12社の得意先は6社に減少。）

②1米弗当たり360円であった固定為替相場は1973年に変動相場となり、以来徐々にまた急激に円高となって来たこと。

③マーケットの変動をみますと、US GULF/日本の穀物運賃に例をとれば、高いときは35弗、最低は確か4弗50仙だったと思います。

④最初に台湾、次に韓国、更には中国等の新興海運国の進出が顕著になって来た事。

⑤悪い事許りではありませんでした。この40年間に世界の経済は甚だしく拡大し日本の輸出入貨物の総量は8億トンに達したと云われて居ります。我々に大いなる恵みをもたらして呉れました。

過去は過去とし、歴史は歴史として、ひるがえって我々ブローカーの現況を見ますと、極めて厳しいものがあります。昨1998年には日本郵船による昭和海運の合併、また本年に入って商船三井の誕生は巨大船社を出現させました。本来不特定多数の商機の中から多数の得意先の最も好むものを

探し出すのがブローカーの仕事であります。得意先の数の減少は我々にとって決して好ましいものではありません。105円、106円と云った為替レートは云うに及びません。更に



増田 晴男氏

コンピューター、Eメールと云った通信機器の行き着く処を知らない発達はブローカーの仕事はどう変えて行くのか。これ等機器の発達は今は我々の強力な武器でありました。サブプライ、トマロウ、モーニングの商売はリプライ、ウイズイン15ミニッツに変わりました。然しこの武器は今後我々を傷つけるものに替わるかも知れません。

然らば我々は如何すればよいのか。組合のメンバー各社は夫々その歴史、得意先、業務の仕方が異なっていると思いますが、何れにしろブローキングの存在価値をこれから仕事に見付け、それを日々充実して行くこと以外に道はありません。

40周年のお目出度い機会に必ずしも明るい話が出来ませんでした。現実を直視することにより未来は開けていくと思います。

組合員各位の奮闘をお祈り致します。

ブローカー業は大乗利他の精神で

エム・シー・マリタイム・トレーディング株式会社 望月 久暉

創立40周年お目出度う御座居ます。

弊社は本組合に加入を認められて未だ4年目の新参者ですが、理事長より何を書いても良いからと云うことで浅学を顧みず筆を取らせて頂いた次第です。

職業としてブローカー業を営んで居りますと云うと、どうも我国ではこの言葉の響きが未だに余り良くない様で、第一印象的には正業に就いて働いている人かどうか、と云うのが世間一般な受け取め方の様に思われます（シップブローカーと頭にシップを付ければ未だ多少はましなのかも知れませんが）。

しかし乍ら実際に組合に加入させて頂いて色々な方々とお話しさせて頂く中で改めて感じますことは、大きな会社に勤めているサラリーマンとは異なり、例え規模は小さくとも夫々に一国一城の主としてまた経営者として長年御活躍されている組合員の方々が多く、種々問題の解決なりそれに至る迄の御苦勞なりを通して培われた豊富な経験より醸し出される人生観なり哲学観より推して、人間的にも魅力にあふれた方々ばかりだと云うことです。このことは当たり前と云えば当然のことです。何を今更と先輩諸氏のお叱りを受けそうですがブローカーとして最も大事な要素の一つに、お客様の信頼を得て末永いお付き合いを続けさせて頂くことにあり、間違っても目先きの利に走り結果として自分の評判を落す様なことになっては自らの首を締める丈のことにしかならないことを良くわきまえて居られること、また他人様の大事な財産をお預りして商売を営んでいる分、少しでもより良い商売をさせて頂ける様それこそ滅私奉公

の精神で身を粉にして昼夜を問わず働いて居られるその姿勢に起因するのではないのでしょうか。

その意味ではブローカー業は正にお釈迦様が残された仏典にもある「先きに他人の為になし二乗の為になすなかれ」と云う大乗利他業の精神に沿うもので、例え尽し損働き損となったとしても他人の為にお役に立たせて頂いているそのことに喜びと感謝を持たせて頂ける様になって行く為の人生としての精進の場をブローカーと云う職業を通して未だ修業の身である我々に与えて頂いているものとも思惟させて頂いて居ります今日この頃であります。

話は変わりますが先日事務局より送付頂いた35周年記念会報掲載のスナップ写真を拝見させて頂いても、僅か5年の間で海運業界も大型合併等もあり随分と様変わりしていること流転変遷は世の常とは云え改めて実感として感じさせて頂いて居ります。そして未だ出口の見えないリストラ、合理化の嵐の中で海運業界就中海運会社の皆様も夫々に大変厳しいお立場に置かれていることとお察し申し上げます。我々ブローカーも全く同様に大変厳しい状況にあることに変わりありません。斯様な厳しい環境の中にあっても否あるからこそ尚更のこと、少しでもGOOD BUSINESSを目指しお互いさま切磋琢磨して参り度いと思えます。我国に海運業界ある限り我々シップブローカーもその土台とならせて頂けます様しっかりとお供させて頂き度いと存じます。40周年と云うことは人間で云えば丁度壮年期ですが、この後の熟年期たる50周年更には60周年を目指し（尤もその頃は小職はとっくに隠退しているでしょうが）、次代の業界を背負

って行ける若い力も育成し乍ら共々に海運業界の発展の為、力を合わせて頑張っ行き度いと念じます故、何卒皆様の引続きの御支援をお願いと致しまして僭越乍ら私の寄稿文とさせて頂きます。



組合のあゆみ

●年代	●理事長名	●組合・海運の動き	●政治・経済・世論等
1959 (昭和34年)	初代 加藤寛道氏就任	・東京海運仲立業組合発足 会員11社 日本船舶600万総トン	・「岩戸景気」にわく ・伊勢湾台風名古屋直撃 (9.26)
1960 (昭和35年)	2代 沢井謙吉氏就任		・日米新安保条約調印 (6.19) ・政府国民所得倍增計画を決定 (12.27)
1961 (昭和36年)	3代 大原尚三氏就任 (昭和46年秋 勲5等瑞宝受章)	・海運講座は第50回にて終了 ・海運取引所打ち切り	・ソ連地球一周有人飛行に成功 (4.12)
1962 (昭和37年)	4代 増川治男氏就任 (昭和59年 木盃 5号受章・死亡)	・佐世保造船所で“日章丸” (13万トン) 当時世界最大のタンカー進水 ・青年部創設	・米国キューバ海上封鎖声明 (10.22)
1963 (昭和38年)	5代 大原尚三氏就任	・会報委員会設定 組合員47社	・ケネディ大統領グラスで暗殺 (11.22)
1964 (昭和39年)	〃	・海運集約合併 中核6社発足	・東海道新幹線開業 (10.1) ・第18回オリンピック東京で開催 (10.10)
1965 (昭和40年)	6代 宮尾亮三氏就任	・全日本内航船主海運組合 ・全国内航輸送海運組合 ・全国内航タンカー海運組合 ・内航大船型輸送海運組合 ・全国海運組合連合会 ・内航5団体発足	・米国北ベトナム爆撃開始 (2.7) ・日銀山一証券に特別融資 発表 (5.28)
1966 (昭和41年)	7代 島津頼次氏就任	・タンカー“出光丸”(209,000 トン) 石川島播磨重工業で 進水 ・巨大タンカー時代開幕	・下半期より45年に至るまで 財政支出と輸出主導による 景気上昇「いざなぎ景気」 ・ガソリン (1リットル) 50円、 映画500円 ・インドネシア政変スカルノ 大統領失脚 (3.11)
1967 (昭和42年)	8代 坪川経二氏就任 (昭和53年秋 勲4等瑞宝受章)		・第6回統一地方選挙 東京都知事に社共推薦 美濃部亮吉氏当選 (4.15) ・イスラエル軍シナイ半島制 圧 (中東戦争始まる) (6.5)

●年代	●理事長名	●組合・海運の動き	●政治・経済・世論等
1968 (昭和43年)	9代 野原六郎氏就任	・東京海運仲立業組合創立10周 年パーティ プレスクラブにて開催	・国民総生産(GNP)146億 ドル 世界で米国に次いで第2位
1969 (昭和44年)	10代 唐木逸男氏就任	・東京海運仲立業組合青年部 研修会を設置	・東名高速道路開通 (5.26) ・アポロ11号人間最初の月面 着陸 (7.26)
1970 (昭和45年)	〃	・東京海運仲立業組合 会員数 56社	・八幡、富士両製鉄所合併 新日本製鉄発足 (3.31) ・日航機よど号赤軍派に乗取 られる (3.31)
1971 (昭和46年)	11代 坪川経二氏就任 (昭和59年 正六 位受章・死亡)	・日本海運仲立業組合に改構 船舶総重量4,028万トン 外国用船約1,600万トン	・沖縄返還協定調印式 (6.17) ・10か国蔵相会議で1ドル＝ 308円に変更 金1オンス＝38ドル (12.18)
1972 (昭和47年)	12代 大原基良氏就任	・米国国際港湾倉庫労組再ス トライキ 太平洋沿岸24港荷役停止 1 か月半 ・全日空ストライキ突入約4 か月 ・タンカー、石炭、穀物、木 材戦後最低の運賃マーケット	・通産相田中角栄「日本列島 改造論」を発表、地価暴騰 の引き金となる (6.11) ・日中国交を樹立 (9.29)
1973 (昭和48年)	〃		・変動相場制へ移行 円急騰 (2.14) ・石油供給5社10%の供給削減 通告 (2.10) ・エクソン、シェル両社石油 30% 引上げを通告 (第1次石油ショック) (10.23)
1974 (昭和49年)	〃	・日本荷主協会発足	・米大統領ニクソンウォーテ ーゲート事件で辞任 (8.8) ・田中内閣総辞職 (11.26)
1975 (昭和50年)	〃	・スエズ運河8年ぶり再開 ・世界最大タンカー“日精丸” 完工 ・日中海運輸送協議会結成	・2月 不況の深刻化完全失業 者100万人突破 ・6月 日本リクルートセンタ ー「就職情報」を創刊
1976 (昭和51年)	13代 増田晴男氏就任		・ロッキード事件発覚 (2.4) ・ロッキードで田中前首相連 捕 (7.27)

●年代	●理事長名	●組合・海運の動き	●政治・経済・世論等
1977 (昭和52年)	〃	・政府領海法案（領海を3カイリから12カイリに拡大）及び200カイリ漁業水域法制定の方針を決定	・大蔵省外貨準備高を史上最高195億7,700万ドルと発表（11.1）
1978 (昭和53年)	14代 石川武男氏就任 (平成6年秋 黄綬褒章受章)		・日中平和友好条約調印（8.12） ・米中国交正常化発表（12.15）
1979 (昭和54年)	〃	・日本海運仲立業組合創立20周年パーティ開催	・第2次石油ショック（12） ・石油消費削減対策発表（3.15）
1980 (昭和55年)	15代 富岡章雄氏就任		・衆参院同時選挙 自民党の圧勝（6.22） ・第22回モスクワオリンピック開幕日米・西独など不参加（7.19）
1981 (昭和56年)	16代 常見昇氏就任		・ローマ法王ヨハネ・パウロ2世来日 広島で平和アピール（2.23）
1982 (昭和57年)	〃		・ホテルニュージャパン火災 死者33人（2.8） ・東北新幹線開業（6.23） ・上越新幹線開業（11.15）
1983 (昭和58年)	17代 小口健二氏就任 (平成5年秋 黄綬褒章受章)		・東京地裁ロッキード裁判 ・フィリピンアキノ野党議員暗殺（8.21） ・田中角栄被告懲役4年 追徴金5億円の実刑判決（10.12）
1984 (昭和59年)	〃	・日本海運仲立業組合創立25周年謝恩パーティ開催 ・サレン倒産 ・アイレッシュ SHIPPING倒産	・韓国全斗煥大統領来日（9.6） ・インドガンディー首相暗殺（10.31）
1985 (昭和60年)	18代 河南丈久氏就任	・三光汽船7,000億円の負債で戦後最大の倒産 ・ワーコン倒産 ・GYトン倒産	・日航機群馬県御巢鷹山山中に墜落20人死亡4人生存（8.12） ・プラザ合意（9.22）
1986 (昭和61年)	〃	・中村汽船1千億円の負債で倒産 三光汽船に次ぐ規模	・東京サミット（5.4） ・社会党日本初の女性党首土井たか子氏誕生（9.6）

●年代	●理事長名	●組合・海運の動き	●政治・経済・世論等
1987 (昭和62年)	19代 大原愼二氏就任		・国鉄114年の歴史を閉じる 分割民営化6社発足（4.1）
1988 (昭和63年)	〃	・昭和海運定期船から完全撤退 ・7月 山下新日本汽船、ジャパンラインの両社は定航部を切り離し日本ライナーシステム（NLS）を発足	・第24回オリンピック韓国で開催
1989 (昭和64年) (平成元年)	〃	・山下新日本汽船、ジャパンライン合併、ナビックスライン発足 ・三光汽船会社更生法適用を決定 ・日本海運仲立業組合創立30周年謝恩パーティ開催 ・アラスカ沖でタンカー“エクソン・バルディーズ”号が座礁、原油大量流出事故発生	・昭和天皇崩御（1.7）年号改元「平成」に ・竹下内閣総辞職 ・消費税導入（4.1） ・宇野内閣発足 3か月にて総辞職 ・海部内閣発足 ・ベルリンの壁撤去（11.9）
1990 (平成2年)	1月 2月 3月 5月 7月 8月 10月 11月 12月 20代 佐々部春生氏就任	・組合分科会、年9回実施を決める ・客船、外航クルージング時代到来 ・(社)日本外航客船協会発足 初代会長 相浦紀一郎氏 ・90年3月期決算において外航大手5社すべてが営業・経常損益において黒字を計上、82年3月期以来8年ぶり ・本邦最大の外航客船“クリスタルハーモニー”就航 ・米国の油濁防止法成立、タンカー二重構造を義務付け、油濁事故責任に対して船主責任を強化 ・日本粗鋼生産1億1千万トンの大台へ	・株式大暴落、バブル経済崩壊 ・海部内閣 運輸大臣大野明氏就任 ・イラクがクウェートに侵攻 ・東西ドイツが統一「ドイツ連邦共和国」 ・英サッチャー首相が辞任 ・海部内閣 運輸大臣村岡兼造氏就任

●年代	●理事長名	●組合・海運の動き	●政治・経済・世論等
1991 (平成3年)	〃	<ul style="list-style-type: none"> ・湾岸危機の影響で燃料費高騰 ・中東湾岸戦争終結で荷動き正常化 ・旧ソ連邦解体に伴い海運界へのインパクト拡大 ・運輸省の組織改正 海運関係は海上交通局に一本化 ・日本郵船と日本ライナーシステムが合併、本邦の遠洋定期航路運営会社は日本郵船、商船三井、川崎汽船の3社に ・国民の祝日「海の日」制定推進運動発足 	<ul style="list-style-type: none"> ・多国籍軍イラクを空爆 湾岸戦争勃発 ・クウェートを解放 湾岸戦争終結 ・ゴルバチョフソ連大統領来日 ・バルシャ湾の機雷除去のため自衛隊の掃海艇を派遣 ・長崎の雲仙普賢岳が噴火 ・株価急落で証券スキャンダルが発覚 ・ソ連で保守派のクーデター失敗 ・米ソ大統領が核軍縮声明 ・宮沢内閣発足 運輸大臣奥田敬和氏就任 ・ソ連ゴルバチョフ大統領辞任 エリツィン大統領による「ロシア連邦」誕生
1992 (平成4年)	21代 川畑繁明氏就任	<ul style="list-style-type: none"> ・国民の祝日「海の日」制定推進運動展開 ・第1回アジア船主フォーラム開催（於東京） ・プルトニウム専用輸送船“あかつき丸”がフランスへ出航 ・解撤問題に積極的に取り組む政策が多々議論される ・海運市況低迷 	<ul style="list-style-type: none"> ・共和汚職事件発覚 ・東京株式市場の平均株価が5年振りに2万円台を割る ・日銀公定歩合を引下げ 年3.75%に ・米国ロサンゼルスで黒人暴動が発生 ・PKO協力が衆院で可決 ・日経平均株価が14,309円の最安値に ・中国、韓国が国交樹立 ・バルセロナオリンピック開催 ・円が急騰、118円の最高値(対米ドル) ・天皇、皇后が中国訪問

●年代	●理事長名	●組合・海運の動き	●政治・経済・世論等
1993 (平成5年)	〃	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回アジア船主フォーラム開催（於ソウル） ・PG/JPNのVLCC運賃堅調に回復 ・本邦のPCC係船あり（完成車の輸出減少による） ・国民の祝日「海の日」制定運動さらに前進 ・1993-1994年版組合員名簿発行（会員数88社） ・神戸海運業組合（組合員12社組合長 佐藤國吉氏）組合に加入、組合員数100社 ・平成5年秋 島津鞆明氏が黄綬褒章受章（日本内航運送取扱業組合の推薦） 	<ul style="list-style-type: none"> ・英国沖でタンカー“ブレイヤー”が座礁、史上最大の原油流出事故発生 ・国民の祝日「海の日」制定推進国民会議で臨時総会 ・米ミシシッピー川大洪水 ・北海道南西沖地震で奥尻島が被害大 ・細川連立内閣発足 運輸大臣 伊藤茂氏就任 ・為替円が101.25円の最高値(対米ドル) ・天候異変で産米は戦後最低に ・日銀公定歩合年1.75%に ・新日鉄7千人削減計画発表 ・タイ米の緊急輸入第1船が横浜に入港
1994 (平成6年)	〃	<ul style="list-style-type: none"> ・外航大手5社3月期決算、各社とも減収減益 ・第3回アジア船主フォーラム開催（於北京） 	<ul style="list-style-type: none"> ・米国ロサンゼルスで大地震 ・国会政治改革関連法案の修正案を可決 ・政府、総額15兆円の総合経済対策を決定 ・鉄鋼大手の赤字拡大、新日鉄を除き無配に ・大蔵省発表、93年度輸出は3,661億ドル、輸入2,441億ドルで黒字1,219億ドルは過去最高 ・羽田内閣発足 運輸大臣二見伸明氏就任 ・中華航空機名古屋空港で着陸失敗、死者263名 ・為替、最高値99.93円（6.27） ・村山連立内閣発足 運輸大臣 亀井静香氏就任 ・日銀、景気回復を宣言 ・93年11月から始まった緊急

●年代	●理事長名	●組合・海運の動き	●政治・経済・世論等
1994 (平成6年)		<ul style="list-style-type: none"> 輸入米の輸送が概ね収束した 	<ul style="list-style-type: none"> ・北朝鮮金日成首席死去 ・日本初の女性宇宙飛行士向井千秋さん「コロンビア」で宇宙へ ・記録的猛暑で各地に取水制限を開始 ・アフリカルワンダの難民救援のため隣国ザイールゴマに向けて自衛隊の第一陣が出發。PKOとして
7月			
8月			
9月			
10月		<ul style="list-style-type: none"> ・本組合35周年記念謝恩パーティを開催 細谷運輸政務次官、松尾運輸事務次官他海運界の多士済々の祝賀を頂く ・平成6年秋 斎藤博氏が黄綬褒章受章（日本内航運送取扱業組合の推薦） 	
12月		<ul style="list-style-type: none"> ・米国油濁法90（OPA90）に基づく米国寄港の為の賠償資力証明書（COFR）提出期限1994.12.28 ・組合35周年を記念し会報を発行 	
1995 (平成7年)		<ul style="list-style-type: none"> ・名刺交換会開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神・淡路大震災（M7.2、死者・不明6,427名）
1月			
2月	22代 小暮信夫氏就任	<ul style="list-style-type: none"> ・定時総会開催 ・「海の記念日」が国民の祝日に 	<ul style="list-style-type: none"> ・地下鉄サリン事件発生（死者12名、重軽傷5,500名）
3月			<ul style="list-style-type: none"> ・統一地方選挙でタレント候補当選、東京・青島幸男知事、大阪・横山ノック知事
4月		<ul style="list-style-type: none"> ・研修会開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・円高が進み東京外為市場で1ドル79.75円となり、市場最高値を更新
5月		<ul style="list-style-type: none"> ・春の懇親甲会（理事長杯）開催 ・運輸省「外航海運・船員問題懇談会」が「国際船舶制度」を提言 	<ul style="list-style-type: none"> ・オウム真理教麻原見代表を逮捕 ・仏大統領選でシラクが当選
6月		<ul style="list-style-type: none"> ・研修会開催 ・第1回「アジア海運フォーラム」開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・米大リーグで野茂英雄投手が初勝利（シーズン13勝6敗）
7月		<ul style="list-style-type: none"> ・研修会開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・参院選で社会党が過去最低

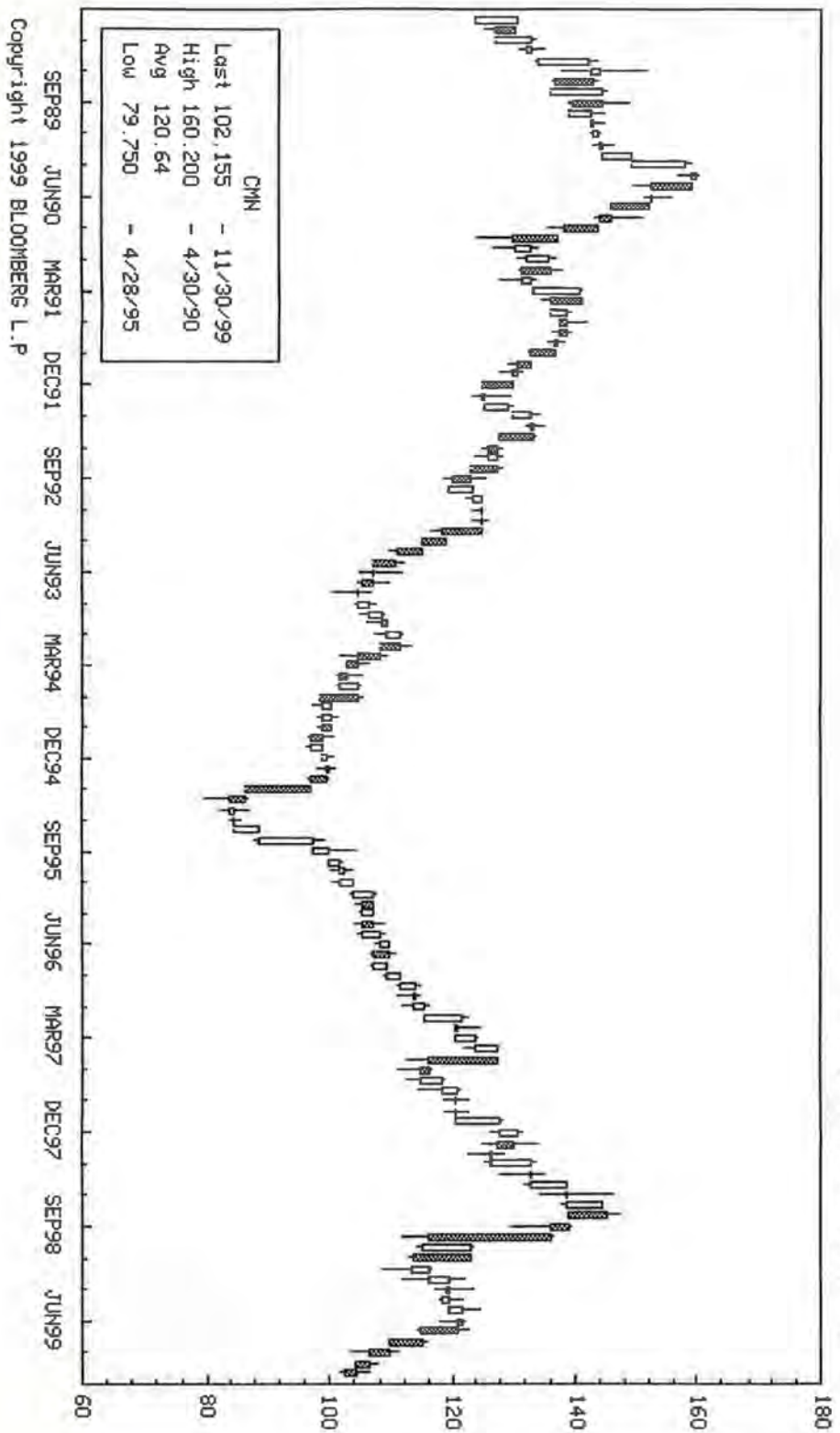
●年代	●理事長名	●組合・海運の動き	●政治・経済・世論等
1995 (平成7年)		<ul style="list-style-type: none"> ・7月20日「海の日」常見昇氏と小暮信夫氏が運輸大臣表彰受章、大里隆司氏が運輸局長表彰を受章 	<ul style="list-style-type: none"> の16議席と惨敗
7月			
8月			<ul style="list-style-type: none"> ・村山富市改造内閣成立
9月			<ul style="list-style-type: none"> ・日銀公定歩合を0.5%引下げ、過去最低の0.5%に決定 ・大和銀行ニューヨーク支店が帳簿外取引で失敗1,100億円の損失発生 ・沖縄米兵暴行事件で安保見直し論議高まる
10月		<ul style="list-style-type: none"> ・研修会開催 ・謝恩パーティ開催 	
11月		<ul style="list-style-type: none"> ・研修会開催 ・秋の懇親甲会開催 ・7年度秋 増田晴男氏が黄綬褒章受章 	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラエルでラビン首相暗殺される
12月			<ul style="list-style-type: none"> ・全斗煥元韓国大統領逮捕される
1996 (平成8年)		<ul style="list-style-type: none"> ・名刺交換会開催 ・定時総会開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・橋本龍太郎内閣成立
1月			
2月			<ul style="list-style-type: none"> ・台湾初の総統直接選挙で李登輝圧勝
3月			<ul style="list-style-type: none"> ・三菱銀行と東京銀行が合併、東京三菱銀行発足
4月		<ul style="list-style-type: none"> ・研修会開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラエル初の首相公選、ネタニヤフ党首当選
5月		<ul style="list-style-type: none"> ・春の懇親甲会（理事長杯）開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・病原性大腸菌O157による食中毒発生
6月		<ul style="list-style-type: none"> ・研修会開催 ・国際船舶制度導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・第26回オリンピックアトラント大会
7月		<ul style="list-style-type: none"> ・研修会開催 ・7月20日「海の日」として国民の祝日発足 古川武昭氏、寺澤純忠氏、鈴木紘氏の3氏が運輸局長表彰受章 	
8月			<ul style="list-style-type: none"> ・国連が包括的核実験禁止条約（CTBT）採択、インド反対
9月		<ul style="list-style-type: none"> ・研修会開催 ・P&OとNedlloydの合併発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国に北朝鮮の潜水艦が侵入、南北朝鮮関係が悪化
10月		<ul style="list-style-type: none"> ・謝恩パーティ開催 	
11月		<ul style="list-style-type: none"> ・FMC、邦船3社（日本郵船、商船三井、川崎汽船）に制裁措置を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・米大統領選でクリントン大統領が再選
12月		<ul style="list-style-type: none"> ・研修会開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペルーの首都リマの日本大使公邸をゲリラ占拠、大使

●年代	●理事長名	●組合・海運の動き	●政治・経済・世論等
1996 (平成8年)	12月		ら人質 ・厚生省汚職で岡光前次官ら逮捕
1997 (平成9年)	1月	・名刺交換会開催 ・ロシアのタンカー“ナホトカ”号が沈没し、重油流出 ・NOL社(シンガポール)がAPL社(米国)を買収 ・定時総会開催	
	2月	23代 松井茂氏就任	・中国の最高実力者、鄧小平死去 ・ペルー日本大使公邸人質事件、武力解決
	4月		
	5月	・研修会開催 ・春の懇親甲会(理事長杯)開催	
	6月	・研修会開催 ・日本海運集会所会長に友國八郎氏が就任	・神戸連続児童殺傷事件で中3男子逮捕
	7月	・研修会開催 ・7月20日「海の日」五十嵐篤氏が運輸大臣表彰受章、西原慧氏、大橋誠二郎氏、牧野田静吾氏の3氏が運輸局長表彰受章 ・“DIAMOND GRACE”号が東京湾で座礁、原油流出 ・P&Oネドロイド社、グラントアライアンスへの参加表明	・香港、1世紀半ぶりに中国へ返還 ・タイを皮切りにアジア諸国で対ドルレートが急落し、アジア通貨危機 ・総会屋小池に対する不祥事で、第一勧業銀行、四大証券会社幹部逮捕される
	8月	・タンカー運賃上昇局面に入る	・ダイアナ英元皇太子妃が交通事故死
	9月	・研修会開催	
	10月	・謝恩パーティ開催 ・アラビア湾/日本向VLC C運賃WS100を記録 ・現代商船、ザ・グローバル・アライアンス(TGA)への参加表明	・北朝鮮の金正日が党総書記就任 ・香港株式の暴落を受けてニューヨーク株、東京市場も大幅安
	11月	・研修会開催 ・秋の懇親甲会開催 ・9年度秋 大原慎二氏が黄綬褒章受章	・北海道拓殖銀行経営破たん ・山一証券自主廃業決定
	12月		・韓国大統領選挙で金大中が当選
1998 (平成10年)	1月	・名刺交換会開催 ・日本海運集会所理事長に	・大蔵省、日銀の接待汚職で大蔵省幹部ら計5人逮捕され

●年代	●理事長名	●組合・海運の動き	●政治・経済・世論等
1998 (平成10年)	2月	高橋清氏が就任 ・定時総会開催	る ・第18回冬季オリンピック長野大会開催
	5月	・研修会開催 ・春の懇親甲会(理事長杯)開催	・インドとパキスタンが核実験 ・インドネシアで大暴動、スハルト大統領退陣
	6月		・日本が初出場のサッカーW杯フランス大会開幕
	7月	・7月20日「海の日」 坪川経大氏が運輸局長表彰受章	・和歌山の毒物カレー事件で4人が死亡、63人が中毒 ・参院選自民惨敗で橋本首相退陣、小淵政権誕生
	8月		・北朝鮮ミサイルが太平洋に落下
	9月		・米大リーグ、マグワイヤが62号本塁打を打ちシーズン最多本塁打記録を更新
	10月	・研修会開催 ・秋の懇親甲会開催 ・日本郵船、昭和海運合併	・日本長期信用銀行国有化 ・ドイツ総選挙で社民党勝利、コール首相退陣
	11月	・研修会開催 ・10年度秋 佐々部春生氏が黄綬褒章受章 ・商船三井、ナビックスライン合併発表 ・謝恩パーティ開催	・ダイムラーベンツとクライスラー合併 ・自自連立政権樹立で合意
	12月		・エクソンがモービル買収 ・米大統領の不倫もみ消し疑惑で弾劾訴追を可決
1999 (平成11年)	1月	・名刺交換会開催 ・Y2K問題に業界あげて取り組む	・EU11か国の単一通貨ユーロ誕生 ・自自連立内閣が発足
	2月	・定時総会開催 ・A.P.Moller、Safmarineの買収を発表	・米大統領の弾劾裁判「無罪」判決
	3月		・NY株1万ドルを突破 ・能登沖の不審船に「海上警備行動」発動
	4月	・商船三井とナビックス合併ー世界最大規模の海運会社誕生	・都知事に石原慎太郎元運輸相が当選
	5月	・研修会開催 ・春の懇親甲会(理事長杯)開催 ・米国海事法の改定	・NATO空爆で中国大使館が被弾
	6月	・日本船主協会会長に商船三井の生田正治氏就任	・ユーゴ、コソボ撤退受諾 ・公明党、連立政権参加を決

●年代	●理事長名	●組合・海運の動き	●政治・経済・世論等
1999 (平成11年)		<ul style="list-style-type: none"> ・新和海運社長に鷺見嘉一氏就任 ・第一中央汽船社長に稲田正三氏就任 ・日之出汽船社長に小林宏志氏就任 ・川崎近海汽船社長に吉田啓一氏就任 ・研修会開催 ・7月20日「海の日」長嶋栄次郎氏が運輸大臣表彰受章、倉石昇氏が運輸局長表彰受章 ・A.P.Moller、Sea-Landの買収を発表 ・Bocimar社、ケーブサイズを大量備船 ・日本郵船社長に草刈隆郎氏就任 ・研修会開催 ・40周年記念謝恩パーティ開催 ・研修会開催 ・秋の懇親甲会開催 ・11年度秋 小暮信夫氏が黄綬褒章受章 	<ul style="list-style-type: none"> 定 ・国旗・国歌法が成立 ・興銀、第一勧銀、富士銀が統合へ ・茨城県東海村で国内初の臨界事故 ・長銀、米リップルウッドに譲渡決定 ・自公連立内閣が発足 ・住友銀・さくら銀、2002年4月までに合併
6月			
7月			
8月			
9月			
10月			
11月			
12月			

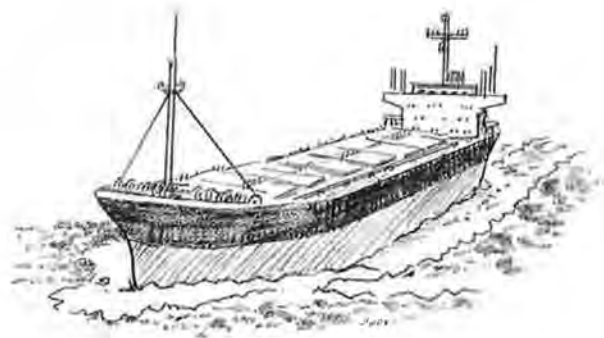
為替動向 (1989～1999)
Dollar - yen (Monthly N.Y. Closing)



固定相場から変動相場への移行
 ~ = ¥360
 1971.12.20 = スミソーン協定時 / ¥308
 1973. 2.14 = 変動相場に移行
 2.15 = 変動相場初日の円相場 / ¥264

平成11年度 組合役員

理事長	松井 茂 (松井商会)
副理事長	大里 隆 司 (シーダム SHIPPING)
同	島津 正 彌 (島津商店)
常任理事	坪川 經 大 (宝運 SHIPPING)
同	藤村 宜 尚 (ペンタマリン)
同	水元 健 一 (大原海運)
理 事	福井 幸 治 (福洋海運)
同	西村 晴 夫 (マリントレーダー)
同	望月 久 暉 (エムシーマリタイムトレーディング)
同	風 当 一 朗 (郵船エージェンシー)
同	宮下 弘 (千代田用船)
監 事	関根 寛 二 (山水海運)
非常勤理事	増田 晴 男 (山水海運)
同	川畑 繁 明 (川畑海運)
同	小暮 信 夫 (ファーイーストチャーターリング)
顧 問	河南 丈 久 (マリントレーダー)
同	石川 武 男 (セントラルマリン商会)
同	常見 昇 (泰生海事)
同	大原 慎 二 (大原海運)
同	菅 明 典 (マリントレーダー)



組合員名簿

日本海運仲立業組合

平成11年10月1日現在

	社 名	代 表 者	郵便番号	会 社 所 在 地 電話番号/ファックス番号
A	(株)阿部商会	阿部 幸夫	〒105-0004	港区新橋5-8-3 代市ビル5階 TEL(03)5470-6741 FAX(03)5470-6748
C	中和海事(株)	斉藤 博	〒101-0041	千代田区神田須田町1-2 日邦・四国ビル TEL(03)3253-0724 FAX(03)3253-0722
〃	(株)セントラルマリン商会	長尾 孝道	〒103-0025	中央区日本橋茅場町3-10-2 SKKビル6階 TEL(03)5640-0204 FAX(03)5640-0415
〃	千代田用船(株)	宮下 弘	〒102-0092	千代田区隼町2-12 TEL(03)3263-9726 FAX(03)3234-2824
〃	(株)センチュリーチャーターリングリミテッド	田川 三郎	〒102-0073	千代田区九段北1-9-16 九段TSビル TEL(03)3238-0222 FAX(03)3238-0220
〃	チャート SHIPPING(株)	三田野 優	〒105-0003	港区西新橋1-18-11 共和三番館7階 TEL(03)3580-3391 FAX(03)3580-3210
D	大同商運(株)	高久 檀	〒104-0032	中央区八丁堀1-6-1 協栄ビル8階 TEL(03)3553-4231 FAX(03)3551-9424
E	イーストウインドリミテッド	東 祥弘	〒105-0003	港区西新橋3-2-1 共同ビル5階 TEL(03)3578-6670 FAX(03)3578-6650
〃	栄和海運(株)	山口誠太郎	〒104-0061	中央区銀座6-12-15 西山ビル4階 TEL(03)3574-9731 FAX(03)3571-6633
F	福洋海運(株)	福井 幸治	〒101-0047	千代田区内神田1-3-8 ステージ内神田ビル2階 TEL(03)3295-2431 FAX(03)3295-2480
〃	富洋海運(株)	嶋田 富次	〒104-0061	中央区銀座1-24-3 銀座MASSKEYビル4階 TEL(03)3567-2569 FAX(03)3567-2574
〃	ファーストマリンアンドトレード(株)	柴崎 章	〒103-0025	中央区日本橋茅場町2-8-1 茅場町第5長岡ビル 3階 TEL(03)3667-3161 FAX(03)3667-3160
〃	ファーイーストチャーターリング(株)	小暮 信夫	〒101-0041	千代田区神田須田町2-1 本間ビル6階 TEL(03)5294-2560 FAX(03)5294-2570
G	グローバル SHIPPING(株)	竹若 弘一	〒104-0061	中央区銀座7-16-21 銀座木挽ビル6階 TEL(03)5565-1805 FAX(03)5565-1803
〃	(株)グリーンチャーターリング	小野坂 拳	〒103-0026	中央区日本橋兜町17-1-204 日本橋ロイヤルプラザ TEL(03)3669-6145 FAX(03)3667-5280
H	宝運 SHIPPING(株)	坪川 經大	〒108-0073	港区三田3-5-21 三田北島ビル TEL(03)5443-9640 FAX(03)5443-9655
I	イオノマリーナ(株)	伊王野 豊	〒113-0034	文京区湯島1-2-10 サンライン御茶の水604 TEL(03)3258-3261 FAX(03)3258-3250
J	(株)ジャスポ	小川 康生	〒103-0026	中央区日本橋兜町17-1-201 TEL(03)3669-2686 FAX(03)3669-4475

	社名	代表者	郵便番号	会社所在地 電話番号/ファックス番号
K	川知海運(株)	川畑 繁明	〒104-0031	中央区京橋3-14-6 斎藤ビル7階 TEL(03)3563-1921 FAX(03)3563-1985
〃	(株)協伸商会	古川 武昭	〒100-0011	千代田区内幸町1-3-3 内幸町ダイビル TEL(03)3502-6681 FAX(03)3502-6688
〃	甲南海商(株)	長谷 正敏	〒103-0025	中央区日本橋茅場町1-3-9 昭栄ビル6階 TEL(03)3639-3916 FAX(03)3667-4097
M	(有)正本商会	唐木 強介	〒104-0032	中央区八丁堀3-9-8 高木ビル3階 TEL(03)3553-0951 FAX(03)3553-5355
〃	(株)松井商会	松井 茂	〒105-0004	港区新橋4-5-11 アーバン新橋ビル1103 TEL(03)5472-7211 FAX(03)5472-7300
〃	明宝海運(株)	佐藤 秀勝	〒104-0032	中央区八丁堀3-22-9 石橋ビル3階 TEL(03)3553-3506 FAX(03)3555-0864
〃	三星海運(株)	井上 晶	〒103-0027	中央区日本橋2-2-15 テイトビル4階 TEL(03)3275-2731 FAX(03)3275-2427
〃	三田海運(株)	神田 一	〒135-0048	江東区門前仲町1-5-6 中村ビル201 TEL(03)5245-2892 FAX(03)5245-2937
〃	(株)マリントレーダー	西村 晴夫	〒104-0033	中央区新川2-22-4 新共立ビル5階 TEL(03)3297-4408 FAX(03)3297-4405
〃	明和インターナショナル(株)	前田 明俊	〒104-0032	中央区八丁堀2-13-4 第2長岡ビル10階 TEL(03)3206-2881 FAX(03)3206-2891
〃	エム・シー・マリタイム・トレーディング(株)	望月 久暉	〒101-0003	千代田区一ツ橋2-4-6 一ツ橋センタービル6階 TEL(03)3288-4001 FAX(03)3288-4037
N	(有)日平海運	平岡 節也	〒244-0004	横浜市戸塚区子雀町2027-5 TEL(045)853-3116 FAX(045)853-3152
O	大原海運(株)	水元 健一	〒103-0026	中央区日本橋兜町12-8 谷本ビル TEL(03)3667-6231 FAX(03)3667-6230
〃	(株)オーシャンチャーターリング	牧野田静吾	〒104-0032	中央区八丁堀3-13-8 トリヤスビル4階 TEL(03)5566-6731 FAX(03)5566-6791
〃	(有)オーシャンクリエイト	寺沢 純忠	〒105-0001	港区虎ノ門5-11-15 KTビル10階 TEL(03)3438-4595 FAX(03)3438-4596
P	ペンタマリン(株)	藤村 宜尚	〒105-0013	港区浜松町1-27-14 サン・キツカワビル9階 TEL(03)5472-0821 FAX(03)5472-0830
S	三貴海運(株)	長嶋栄次郎	〒103-0025	中央区日本橋茅場町2-14-5 石川ビル5階 TEL(03)3667-5595 FAX(03)3667-9406
〃	三信海運(株)	三井 昌夫	〒100-0004	千代田区大手町2-6-2 日本ビル4階 TEL(03)3242-3411 FAX(03)3243-0477
〃	三和交易(株)	小口 淳司	〒103-0027	中央区日本橋1-2-10 東洋ビル TEL(03)3271-5710 FAX(03)3271-7705

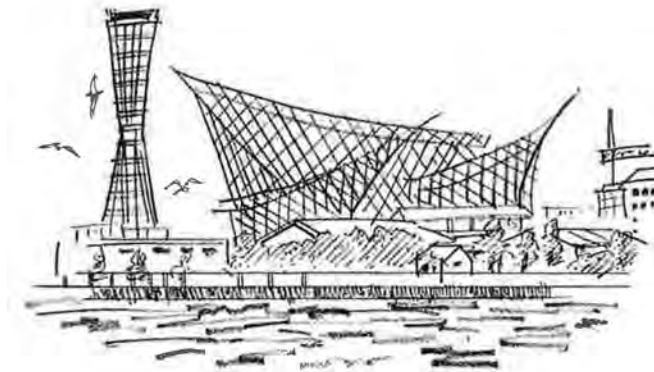
	社名	代表者	郵便番号	会社所在地 電話番号/ファックス番号
S	三福海事(株)	長谷川秀夫	〒103-0025	中央区日本橋茅場町2-8-8 共同ビル7階 TEL(03)3667-8523 FAX(03)3667-4854
〃	(株)島津商店	島津 鞆明	〒104-0031	中央区京橋1-9-4 京和ビル5階 TEL(03)3564-6607 FAX(03)3561-4600
〃	三立海運(株)	倉石 昇	〒105-0004	港区新橋5-19-15 鷺レンガビル3階 TEL(03)3433-2688 FAX(03)3433-2692
〃	三栄海運(株)	石崎 栄	〒104-0042	中央区入船1-2-8 サンパーク東京銀座ビル 604 TEL(03)3551-3890 FAX(03)3551-8327
〃	スズキ海運(株)	鈴木 充男	〒104-0031	中央区京橋2-2-14 山愛ビル5階 TEL(03)3275-1361 FAX(03)3278-1674
〃	シーダムシッピング(株)	大里 隆司	〒105-0003	港区西新橋2-4-4 小里ビル4階 TEL(03)3508-0921 FAX(03)3508-0395
〃	(株)山王エージェンシー	上村 行男	〒105-0003	港区西新橋1-19-3 第2双葉ビル3階 TEL(03)3591-5381 FAX(03)3591-8585
〃	三和ライン(株)	大橋誠二郎	〒141-0031	品川区西五反田2-9-7-1006 TEL(03)3494-6471 FAX(03)3494-8750
〃	シーサービス(株)	下島 理巳	〒107-0061	港区北青山3-9-1 AQUA 3階 TEL(03)5485-5566 FAX(03)5485-9822
〃	盛洋シッピング(株)	横田 正洋	〒104-0042	中央区入船3-9-1 第2細矢ビル4階 TEL(03)3553-8021 FAX(03)3553-8023
〃	(株)シーバルクチャーターリング	宮崎 貢	〒107-0062	港区南青山1-14-7 ヴェルディエー乃木坂2階 TEL(03)3408-0391 FAX(03)3408-0740
〃	商運マリン(株)	小川 広美	〒105-0004	港区新橋6-5-4 DIK新橋ビル7階 TEL(03)3459-6626 FAX(03)3459-6629
〃	サンビームシッピング(株)	黒田 俊介	〒103-0003	中央区日本橋茅場町4-11-6 共同ビル6階 TEL(03)3639-1071 FAX(03)3639-1075
〃	(株)シップストゥエンティワン	鈴井 進	〒105-0001	港区虎ノ門5-4-10 仙石山アートハウス TEL(03)3438-2351 FAX(03)3438-0961
T	東洋商事海運(株)	正親 寛子	〒100-0005	千代田区丸の内3-3-1 新国際ビル4階 TEL(03)3212-1741 FAX(03)3212-1746
〃	(株)東洋商会	中馬 良三	〒103-0027	中央区日本橋2-14-4 開運ビル4階 TEL(03)3274-4936 FAX(03)3278-8935
〃	泰生海事(株)	常見 昇	〒104-0031	中央区京橋3-7-10 須藤ビル2階 TEL(03)3561-8481 FAX(03)3561-8488
〃	泰通海運(株)	宮尾 泰司	〒100-0005	千代田区丸の内2-6-2 丸の内八重洲ビル5階 TEL(03)3216-4551 FAX(03)3216-4558
〃	高谷シッピング(株)	高谷 信一	〒105-0001	港区虎ノ門2-5-21 寿ビル4階 TEL(03)3503-1941 FAX(03)3581-9240

神戸海運業組合

平成11年10月1日現在・順不同

	社名	代表者	郵便番号	会社所在地 電話番号/ファックス番号
T	東京商運(株)	宮田 俊明	〒104-0033	中央区新川2-19-8 第二杉田ビル7階 TEL(03)3553-5341 FAX(03)3553-5860
〃	月星海運(株)	中村 和生	〒104-0032	中央区八丁堀4-11-5 月星ビル TEL(03)3552-5556 FAX(03)3552-8058
〃	東神インターナショナル(株)	宿野 雅由	〒101-0048	千代田区神田司町2-4 神田アーバンビル8階 TEL(03)5296-0377 FAX(03)5296-0370
〃	ティエスエルタンカー(株)	内藤 守	〒105-0001	港区虎ノ門5-11-12 虎ノ門ACTビル2階 TEL(03)3438-2441 FAX(03)3438-2381
〃	(有)タイヨウマリンコーポレーション	斉藤 昌三	〒106-0032	港区六本木7-3-8 永谷ビルプラザ518 TEL(03)3470-6054 FAX(03)3470-6052
〃	(有)轟木海運事務所	轟木 保廣	〒279-0026	浦安市弁天2-30-3 TEL(047)351-1303 FAX(047)351-1303
U	内田海運(株)	鮎井 俊夫	〒107-0052	港区赤坂3-15-5 鈴松ビル3階 TEL(03)3585-6981 FAX(03)3505-1269
〃	ユニ SHIPPING(株)	寺西 孝	〒105-0004	港区新橋5-8-3 代市ビル5階 TEL(03)3435-1171 FAX(03)5470-6748
〃	ユニバーサル SHIPPING(株)	山宮 兼廣	〒105-0003	港区西新橋1-22-7 丸万7号館 TEL(03)3580-7417 FAX(03)3504-3727
Y	山水海運(株)	川辺 一彦	〒103-0003	中央区日本橋本町4-4-2 東山ビル6階 TEL(03)3245-0311 FAX(03)3246-2789
〃	友洋海運(株)	清水 弘勝	〒104-0031	中央区京橋2-6-13 第二下村ビル TEL(03)3563-1061 FAX(03)3563-2868
〃	山名海運(株)	吉田 修身	〒104-0032	中央区八丁堀1-13-2 三和ビル TEL(03)3551-6071 FAX(03)3555-1097
〃	(株)郵船エイジェンシー	風当 一朗	〒103-0025	中央区日本橋茅場町1-8-3 郵船茅場町ビル6階 TEL(03)5644-0281 FAX(03)5644-0285
	日本海運仲立業組合	事務局	〒104-0031	中央区京橋2-6-5 京橋菊池ビル4階 TEL(03)3561-1335 FAX(03)3561-6107

	社名	代表者	郵便番号	会社所在地 電話番号/ファックス番号
	日下部建設(株)	山名 俊茂	〒650-0024	神戸市中央区海岸通5番地 商船三井ビル TEL(078)331-2117 FAX(078)392-3112
	佐藤國汽船(株)	佐藤 國吉	〒650-0024	神戸市中央区海岸通8番地 神港ビル TEL(078)331-6481 FAX(078)392-4015
	摂津海運(株)	塚本 博行	〒650-0024	神戸市中央区海岸通1-2-8 第三萬利ビル TEL(078)331-7421 FAX(078)331-9054
	竹本海運(株)	砂田 圭佑	〒650-0011	神戸市中央区下山手通3-1-17 神戸マリンビル 6階 砂田圭佑事務所気付 TEL(078)334-3030
	(有)谷田海運商会	谷田 祐一	〒655-0039	神戸市垂水区霞ヶ丘1-4-7 TEL(078)707-2003 FAX(078)707-2313
	野田海運(株)	野田 政則	〒650-0003	神戸市中央区山本通5-10-7 エメラ東洋5階 TEL(078)371-5226 FAX(078)371-5228
	松葉商会	松葉 一秋	〒659-0023	芦屋市大東町17-3-403 TEL/FAX(0797)22-7417
	是川海運(有)	是川 八郎	〒654-0003	神戸市須磨区桜木町2-1-47 TEL(078)731-6779 FAX(078)732-8553
	白沢船舶商会	白沢 國夫	〒655-0891	神戸市垂水区山本通5-10-1 TEL(078)753-3727 FAX(078)753-0953
	神戸海運業組合	事務局	〒655-0024	神戸市中央区海岸通8番地 神港ビル TEL(078)331-6481 FAX(078)332-4015



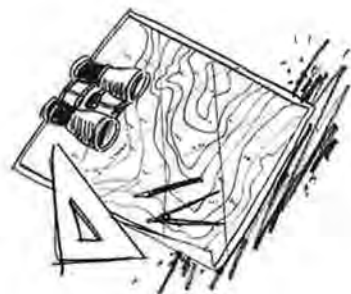
編 集 後 記

昭和34年日本橋で産声を揚げた私達の組合も早40周年を迎えました。記念の謝恩パーティーも運輸省海上交通局長をはじめ、各海運会社の代表者の方々も多数参列を頂き、盛会に終了しました事を感謝致します。

海運市況も若干明るい兆しが見えはじめ私ども仲立業組合員の活躍の場も増えるのではないかと、期待しております。

本号発刊に際しては、多数のご祝辞、ご寄稿を頂き有り難う御座居ました。

今後ともより充実した機関誌にすべく努力して参りますので、皆々様のより一層のご指導、ご鞭撻を重ねてお願い致します。



●会報編集委員

- 松井 茂 (松井商会)
- 島津 正彌 (島津商店)
- 大里 隆司 (シーダム SHIPPING)
- 水元 健一 (大原海運)
- 西村 晴夫 (マリントレーダー)
- 風当 一朗 (郵船エージェンシー)
- 川畑 繁明 (川畑海運)
- 松山 典子 (事務局長)

●日本海運仲立業組合事務局

〒104-0031 東京都中央区京橋2-6-5
京橋菊池ビル4階
TEL. 03-3561-1335
FAX. 03-3561-6107

製作 / (株) 日刊海事通信社
〒105-0003 東京都港区西新橋3-23-6 白川ビル
TEL. 03-3433-0955(代) <http://www.funec.co.jp>

